



# 国立国会図書館利用案内

## 東京本館

所在地 〒100-8924 東京都千代田区永田町1-10-1  
電話番号 03(3581)2331  
利用案内 03(3506)3300(音声サービス)  
03(3506)3301(FAXサービス)  
ホームページ <http://www.ndl.go.jp/>  
利用できる人 満18歳以上の方  
資料の利用 館内利用のみ。館外への帯出はできません。  
休館日 日曜日、国民の祝日・休日、年末年始、資料整理休館日(第3水曜日)  
おもな資料 和洋の図書、和雑誌、洋雑誌(年刊誌、モノグラフシリーズの一部)、和洋の新聞、各専門室資料

### サービス時間

開館時間	月～金曜日 9:30～19:00 土曜日 9:30～17:00	即日複写受付	月～金曜日 10:00～18:00 土曜日 10:00～16:00
	<small>※ただし、音楽・映像資料室、憲政資料室、古典籍資料室の開室時間は17:00までです。</small>	後日複写受付	月～金曜日 10:00～18:30 土曜日 10:00～16:30
資料請求時間	月～金曜日 9:30～18:00 土曜日 9:30～16:00	オンライン複写受付	月～金曜日 10:00～17:30 土曜日 10:00～15:30
	<small>※ただし、音楽・映像資料室、憲政資料室および古典籍資料室の資料請求時間は16:00までです。</small>		

■見学のお申込み／国立国会図書館 資料提供部 利用者サービス企画課 03(3581)2331 内線26111

## 関西館

所在地 〒619-0287 京都府相楽郡精華町精華台8-1-3  
電話番号 0774(98)1200(音声サービス)  
利用案内 0774(98)1212(FAXサービス)  
ホームページ <http://www.ndl.go.jp/>  
利用できる人 満18歳以上の方  
資料の利用 館内利用のみ。館外への帯出はできません。  
休館日 日曜日、国民の祝日・休日、年末年始、資料整理休館日(第3水曜日)  
おもな資料 和図書・和雑誌・新聞の一部、洋雑誌、アジア言語資料・アジア関係資料(図書、雑誌、新聞)、科学技術関係資料、文部科学省科学研究費補助金研究成果報告書、博士論文

### サービス時間

開館時間	月～土曜日 10:00～18:00	即日複写受付	月～土曜日 10:00～17:00
資料請求時間	月～土曜日 10:00～17:15	後日複写受付	月～土曜日 10:00～17:45
セルフ複写受付	月～土曜日 10:00～17:30	オンライン複写受付	月～土曜日 10:00～17:00

■見学のお申込み／国立国会図書館関西館 総務課 0774(98)1224 [直通]

## 国際子ども図書館

所在地 〒110-0007 東京都台東区上野公園12-49  
電話番号 03(3827)2053  
利用案内 03(3827)2069(音声サービス)  
ホームページ <http://www.kodomo.go.jp/>  
利用できる人 どなたでも利用できます(ただし第一・第二資料室は満18歳以上の方)。  
資料の利用 館内利用のみ。館外への帯出はできません。  
休館日 月曜日、国民の祝日・休日(5月5日こどもの日は開館)、年末年始、資料整理休館日(第3水曜日)  
※第一・第二資料室は、休館日のほか日曜日に休室します。メディアふれあいコーナーと本のミュージアムは、行事等のため休室することがあります。  
おもな資料 国内外の児童図書・児童雑誌、児童書関連資料

### サービス時間

開館時間	火～日曜日 9:30～17:00	<small>※1階子どものへや、世界を知るへやおよび3階メディアふれあいコーナー、本のミュージアムの利用時間は、開館時間と同じく9:30～17:00です。</small>	
第一・第二資料室の利用時間	閲覧時間	火～土曜日 9:30～17:00	資料請求時間 火～土曜日 9:30～16:30
複写サービス時間	即日複写受付	火～日曜日 10:00～16:00	後日複写受付 火～日曜日 10:00～16:30
	複写製品引渡し	火～日曜日 10:30～12:00 13:00～16:30	

■見学のお申込み／国立国会図書館国際子ども図書館 03(3827)2053 [代表]

# 12 December

## CONTENTS

- 02 百科全書 フランス革命を準備した書物  
今月の一冊 国立国会図書館の蔵書から
- 04 絵本の黄金時代 1920～1930年代 子どもたちに託された伝言
- 11 走れ！ 収集ロボット インターネット資料収集のしくみ
- 19 知識へのオープンアクセス 持続的な発展の促進に向けて  
世界図書館情報会議—第76回国際図書館連盟（IFLA）大会
- 26 本の森を歩く 第7回 雪—冬に咲く華

- 
- 18 館内スコープ  
国民読書年をふりかえって
- 30 本屋にない本  
○『石井桃子展』
- 31 NDL NEWS  
○韓国国立中央図書館との第13回業務交流  
○子どもの読書活動推進支援計画2010
- 32 お知らせ  
○JAPAN/MARCがOCLCを通じて利用できる  
ようになりました  
○英国図書館の資料保存についての講演会  
○シリーズ・いま、世界の子どもの本は？  
第3回「いま、韓国の子どもの本は？」  
○平成22年度児童サービス協力フォーラム  
○平成22年度レファレンス研修  
○新刊案内 国立国会図書館の編集・刊行物
- 38 『国立国会図書館月報』年間索引

## 百科全書 フランス革命を準備した書物

鈴木 尊紘

『百科全書』は、フランスの啓蒙思想家ディドロ（Denis Diderot 1713-1784）によって編まれた大規模な百科事典である。正式名称は、『百科全書、または学問、芸術および工芸の合理的辞典』という。

百科全書という体系的記述書は、イギリスのチェンバース（Ephraim Chambers 1680頃-1740）による『サイクロペディア』（*Cyclopædia*）（1728）に始まる。1745年、この書物のフランス語訳がパリの出版業者ル・ブルトン（André François Le Breton 1708-1779）に依頼され、ル・ブルトンはディドロとダランベール（Jean Le Rond d'Alembert 1717-1783）を雇い、同書の翻訳とともに、項目を拡大し、より大きな百科事典を作成しようとした。

ディドロによる『百科全書』趣意書の一文は、その方向性を如実に指し示している。「技術と学問のあらゆる領域にわたって参照されうるような、そしてただ自分自身のためにのみ自学する人々を啓蒙すると同時に、他人の教育のために働く勇気を感じている人々を手引きするのにも役立つような、ひとつの『辞典』を持つことが大切だ、と私たちは信じたのである」<sup>1</sup>。ディドロらは、無味乾燥な事実や知識ではなく、当時啓蒙的で新しいとみなされていた諸学問（例えば、ジョン・ロックの経験論、ニュートンの新科学およびそれから派生した感覚論・唯物論等）に基づいて、最先端の知識を集めようとした。すなわちそれは、中世のスコラ哲学やフランスに伝統的なデカルト主義からの決別を表明するものであった。

1751年7月1日、パリで『百科全書』第1巻が刊行された。初版の発行部数は約4千部で、当時としては大成功であった。予約購買者の中心となったのは、新興のブルジョワ階

級であり、彼らがフランス革命の推進派となった。これが『百科全書』がフランス革命を準備したといわれる所以である。その後、1751年から1772年までに全28巻（本文17巻、図版11巻）および補巻・索引が刊行され、本文16,142頁、項目数71,709、執筆者総数184人という膨大な『百科全書』ができあがった。

『百科全書』の先駆性について、スタンダールは『バルムの僧院』で、フランスの人々が50年来『百科全書』とディドロに並ぶ啓蒙思想家ヴォルテールを読みフランス革命を起こした一方で、イタリアは「僧侶に善良」な専制主義に陥っていたと述べている<sup>2</sup>。また、ラブレールの翻訳で知られる渡邊一夫は『フランスルネサンス断章』で、ルネサンス時代の出版者ドレ（Étienne Dolet 1509-1546）は、当時にしてみれば、ディドロやヴォルテールが口にするような「全く異端的な言葉」を話していたために焚刑に処せられたと述べている<sup>3</sup>。

『百科全書』は、イタリアやスイスで異本（偽版）が刊行され、ヨーロッパ全土に広まった。国立国会図書館は、1778年から1779年にかけてスイス・ジュネーブとヌーシャテルで刊行された版を所蔵している。初版に加筆を施し、判型を半分にして図版を減らし、本文36巻および図版3巻からなるこの版は、価格が大幅に下げられて約8千部刊行された。

『百科全書』の先駆性は、フランス革命、いいかえれば、フランス革命以後の民主主義社会を準備したのである。そして、出版から200年を超えた現在、依然として、民主主義の芳香をはなっている。

（すずき たかひろ 調査及び立法考査局政治議会課憲法室）

1 桑原武夫訳編『百科全書 序論および代表項目』岩波書店 1974 p.138  
2 大岡昇平訳『バルムの僧院 上巻』新潮社 1951 p.11  
3 『フランスルネサンス断章』岩波書店 1950 p.65

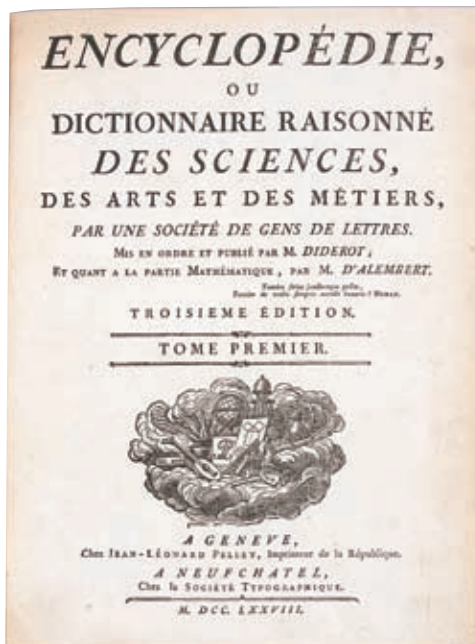


写真1



写真2



写真3

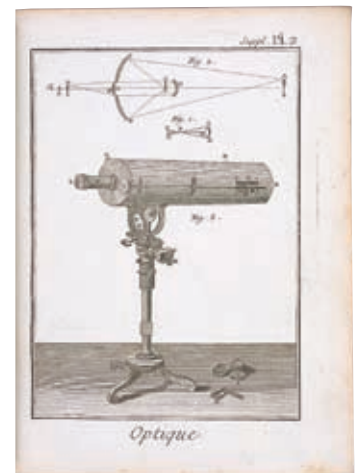


写真4

写真1 1巻標題紙

写真2 図版2巻 諸科学：化学 科学者の実験室

写真3 図版2巻 諸科学：解剖学 人体の前面

写真4 図版3巻 諸科学：物理学 ニュートンの顕微鏡、パーカー発明の反射顕微鏡の説明図と組み立てられた顕微鏡

*Encyclopédie, ou dictionnaire raisonné des sciences, des arts et des métiers* / par une société de gens de letters, mis en ordre & publié par M. Diderot; & quant à la partie mathématique, par M. D'Alembert ...

Geneve : Leonard Pelletier ; Neufchâtel : Société typographique, 1778-79.

本文・図版全39巻

Vol. 10, 17, 19, 22, 24, 26, 29, 31-32, 34-35の版次は“Nouvelle édition”

<請求記号 034-E562> ※東京本館所蔵

より深く知るために

●逸見龍生 「書物としての『百科全書』 18世紀ヨーロッパ『百科全書』異本ネットワーク」『欧米の言語・社会・文化』(12) [2006.3] pp. 1-18 <http://hdl.handle.net/10191/5988>

●Darnton, Robert. *The business of enlightenment : a publishing history of the Encyclopédie, 1775-1800*. Cambridge : Belknap Press of Harvard University Press, 1979 <請求記号 UM87-8>

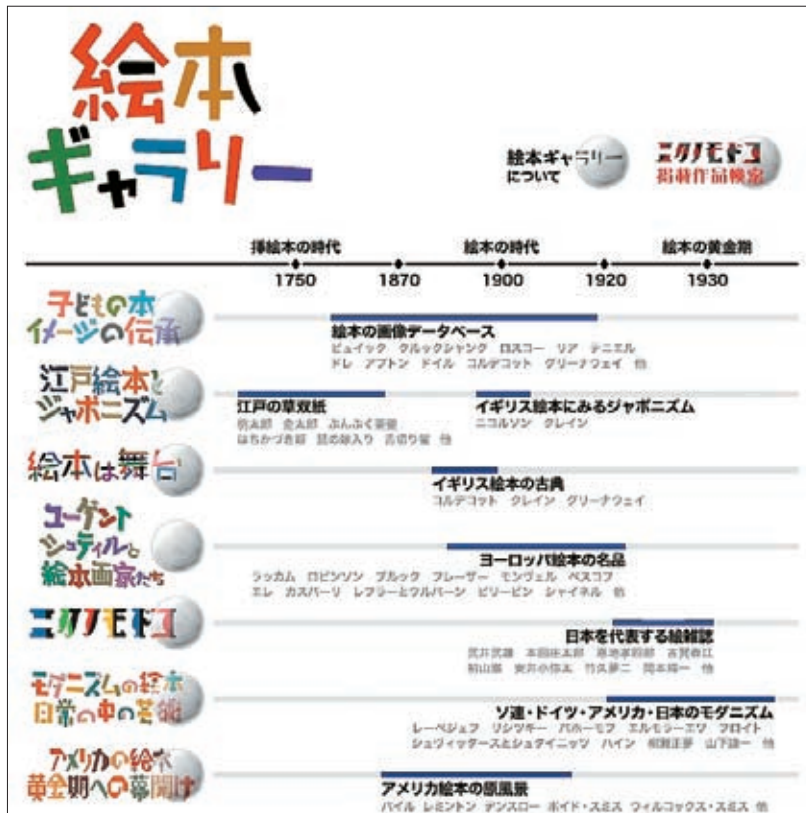
# 絵本の 黄金時代

**1920～1930年代  
子どもたちに託された伝言**

**The Golden Age of the Picture Book:  
1920s & 1930s – History's Message to Children**

世界各地で優れた絵本が数多く出版された、「絵本の黄金時代」ともいわれる1920～1930年代。絵本文化は子どもたちに新しい社会の訪れを伝え、多民族・多文化社会の絵本を模索したアメリカと、革命後のソビエト連邦で、とりわけ豊かに花開きます。

約80年前、子どもたちに未来への希望を託した絵本は、多文化・多民族の「共生の時代」と呼ばれる現代に、どのようなメッセージを伝えるのでしょうか。



展示会監修者 島多代氏  
「絵本ギャラリー」トップページ  
国際子ども図書館>絵本ギャラリー  
(<http://www.kodomo.go.jp/gallery/>)

国際子ども図書館は、平成12年の開館以来、インターネット上の電子展示会「絵本ギャラリー」で、絵本の草創期から20世紀初頭に至るまでの流れを、当時の代表的な作品や時代背景、芸術潮流を交えて解説しています。

20世紀に入り、世界が第一次世界大戦やロシア革命という大きな転換期を迎える中、絵本は、未来への希望を子どもたちに託す伝承媒体として全盛期を迎えます。今回の展示会は、近代絵本の系譜をたどってきた「絵本ギャラリー」のいわば最終章として、この「絵本の黄金時代」ともいわ

れる1920～30年代を取り上げました。

展示資料は、1920～30年代のアメリカやソビエトを代表する作品のほか、近代絵本の発展過程において絵本作家たちに影響を与えてきた、ユージェントシュティル（アールヌーヴォー）、ジャポニズム、モダニズムなどの世界的な芸術の潮流を示す作品等約220点です。展示会監修者の島多代氏（社団法人日本国際児童図書評議会会長）が主催する私設絵本資料室「ミュゼ・イマジネール」が所蔵する貴重な資料も含まれます。



左から  
*Millions of cats* (100まんびきのねこ) W.ガアグ作 1928  
 <請求記号 Y17-B11624>  
*Taxis and toadstools* (タクシーときのこ) R.フィールド作 1926  
 <ミュゼ・イマジネール所蔵>



## 第1章 アメリカの絵本 — 多文化を映し出す鏡 —

1920～1930年代のアメリカでは、第一次世界大戦後の空前の繁栄のもと、世界各地から大量の新しい移民層を受け入れるなかで、多様な担い手により多文化社会のための絵本が模索されました。

アメリカの絵本は、20世紀初頭までイギリスやフランスの強い影響を受けていたといわれていますが、1920年前後には、よい本を子どもたちに届けようとする児童図書館員や児童書編集者の積極的な取り組みが、「子どもの本への情熱」ともいべき状況を生み出します。大手出版社はこ

ぞって児童書部門を設立し、そこに集まったルイズ・シーマン（・ベクテル）<sup>1</sup>やメイ・マッシー<sup>2</sup>などの優れた編集者が、作家とともに良質な子どもの本を次々と世に送り出します。また、アニメーションの影響もあり、それまでの絵本とは一線を画する商業的な大衆絵本が台頭します。

この時期の絵本作家には、『100まんびきのねこ』（1928年）の作者ワンダ・ガアグ<sup>3</sup>のように元々芸術家を志していた人々や、ロバート・ローソン<sup>4</sup>、レナード・ワイズガード<sup>5</sup>など広告デザイナー出身者など、さまざまな業界から子どもの本の世界に轉身してきた人物の多いことが特徴です。ま

<sup>1</sup> Louise Seaman Bechtel 1894-1985

<sup>2</sup> May Masee 1881-1966

<sup>3</sup> Wanda Gag 1893-1946

<sup>4</sup> Robert Lawson 1892-1957

<sup>5</sup> Leonard Weisgard 1916-2000



た、戦乱や革命のヨーロッパから逃れ、海を渡ってきたウィリー・ポガニー<sup>6</sup>、ミシュカ・ピーターシャム<sup>7</sup>、フェードル・ロジャンコフスキー<sup>8</sup>など、祖国の文化を作風に反映した作家、彼らの挑戦を受ける形となったマージョリー・フラック<sup>9</sup>やロイス・レンスキー<sup>10</sup>など、その作品からハリウッド映画の影響がうかがえる生粋のアメリカ人作家といった、多彩な出自がみられます。

展示では、作家の出自の多様性がアメリカの絵本にもたらした影響に着目し、これまで国内であまり紹介されてこなかった作品を中心に紹介しています。アメリカ絵本の黄金時代は、まさに多文化・多民族社会アメリカを反映したものであったといえます。

## 第2章 ソビエトの絵本

### — 新しい社会への希望 —

ソビエトでは、ロシア革命とそれに続くソビエト連邦の成立という激動の時代を経て、スターリンによる統制が強化される1930年代後半までの短い間、ロシア・アヴァンギャルドと呼ばれる前衛芸術表現のもとで、粗末な造りながらも色鮮やかな絵本が数多く生み出されました。

ロシア・アヴァンギャルドの影響を受けた前衛作家たちは、ユーラシア大陸にまたがる広大な多

民族国家の子どもたちや非識字者に対して、新しい社会への期待と来るべき未来へのメッセージを伝える手段として数多くの絵本を生み出しました。その挿絵は、1枚1枚がポスターとしても通用するような力強い次代へのメッセージが込められています。またダニール・ハルムス<sup>11</sup>などの前衛詩人は、理想の世界の実現を信じ、絵本を通じて子どもたちに語りかけました。記号的なイラストレーションで生産技術を伝える絵本、労働の意味を子どもたちに伝える絵本、連邦を構成する民族間の相互理解や革命運動の意義を説く絵本など、



Иван Иванович Самовар (イワン・イワヌイチ・サモワール)  
D.ハルムス詩、V.エルモラーエワ絵 1929  
<ミュゼ・イマジネール所蔵>

6 Willy Pogány 1882-1955  
7 Miska Petersham 1888-1960  
8 Feodor Rojankovsky 1891-1970

9 Marjorie Flack 1897-1958  
10 Lois Lenski 1893-1974  
11 Даниил Хармс 1905-1942



特別コーナー

■ 1930年代フランスー《絵本の黄金時代》の結実  
 当時、世界のデザイン界の最先端を行くパリで生まれた、ソビエト絵本の影響を受けた簡素な造本の知

識絵本「カストール文庫」などのフランスの作品を紹介します。



Эта книжечка моя про моря и про маяк  
 (海と灯台についての私の本)  
 V. マヤコフスキー詩、B. ポクロフスキー絵 1927  
 <ミュゼ・イマジネール所蔵>

人類の未来や社会への希望を託した芸術家たちの息吹を感じさせる作品が数多く生まれました。

しかし、『海と灯台についての私の本』（1927年）で「子どもたちよ、闇に苦しむ人々のために進路を照らす灯台になれ」と説いた前衛詩人ウラジーミル・マヤコフスキー<sup>12</sup>がその3年後に失意の中で自殺したことに象徴されるように、1930年代に入ると、社会主義リアリズムを前面に押し出すスターリン体制下の国家方針の中でロシア・アヴァンギャルドは急速に衰退し、ソビエトの絵本は、その短い黄金時代に幕を下ろしました。

このほか、展示では、革命後の前衛的な作品との対比として、帝政ロシア末期におけるイワン・ビリービン<sup>13</sup>、ゲオルギー・ナルブト<sup>14</sup>ら「芸術世界派」の作家による、アールヌーヴォーやジャ

12 Владимир Маяковский 1893-1930

13 Иван Билибин 1876-1942

14 Георгий Нарбут 1886-1920

15 Walter Crane 1845-1915

16 Kate Greenaway 1846-1901

17 Randolph Caldecott 1846-1886



Panorama du fleuve (Albums du Père Castor) (川のパノラマ) M.コルモン作、A.エクステル絵 c1937 <請求記号 Y17-B5149>

#### ■ 伝承されたイメージ-日本へ

画家たちのイメージ表現における日本と西洋の間の共通性を探ります。

#### ■ 1920～1930年代の美術家の絵本

画家ホアン・ミロが挿絵を手がけた版画作品や、マリー・ローランサンの挿絵による『不思議な国のアリス』を紹介します。

ポニズムの影響を受けた華麗で細密な作品をあわせて紹介しており、初期ソビエトにおける「絵本の革命」が浮かび上がる構成としています。

### 第3章 黄金時代への道

ここでは、『絵本ギャラリー』の構成に沿って、19世紀から20世紀初頭までの近代絵本の系譜を、世界美術の流れを示す代表的な作品とともにご紹介します。

17世紀後半以降のチャップブック(呼び売り本)の時代から、19世紀後半の木口木版による美しい多色印刷の時代を迎えたイギリスでは、製版師エドモンド・エヴァンスによって見出された、ウォルター・クレイン<sup>15</sup>やケイト・グリーナウェイ<sup>16</sup>、ランドルフ・コルデコット<sup>17</sup>らによる質の高い作品の登場により、芸術性あふれる「絵本の舞台」が華やかに開幕します。

19世紀末には、科学技術が進展し、社会構造が大きく変わる中で、「自然への回帰」をテーマとしたユーゲントシュティル(アールヌーヴォー)と呼ばれる芸術運動が絵本にも影響を与えます。また、葛飾北斎、安藤広重、河鍋暁斎の浮世絵などの日本美術もヨーロッパの芸術家に大きな影響を与えました。

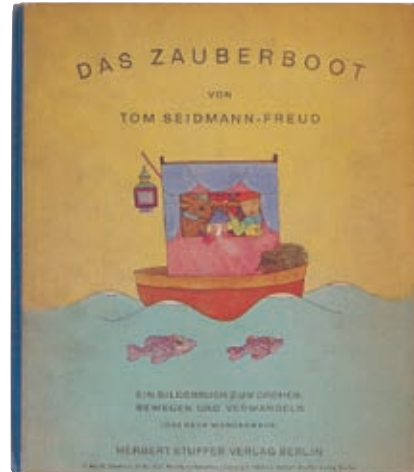
ヨーロッパでは、第一次大戦やロシア革命など



The little Mother Goose (小さなマザーグース) J.W.スミス作 [1918] <ミュゼ・イマジネール所蔵>



Сказка о царѣ Салтанѣ: Сказки Пушкина  
 (サルタン王の物語：プーシキンの昔話集)  
 I. ビリービン絵 1905 <請求記号 Y17-B5302>



Das Zauberboot (まほうのふね) T.ザイドマン・フロイト作  
 c1929 <ミュゼ・イメージナル所蔵>

の激動の時代を経て急速な都市化が進み、中産階級が台頭しました。そして、技術の進歩に未来への希望を託した庶民の日常生活を反映するモダニズムと呼ばれる芸術運動が盛んになります。その影響は、『赤い鳥』や『コドモノクニ』などの子ども向け雑誌が全盛期を迎えた大正デモクラシーの日本にも及び、豊かな芸術性が人間性を育むという理想のもとに、村山知義や夏川八郎などの前

衛的な画家が活躍します。

80年の年月を経ても色あせることのない、これらの名作絵本に込められた時代のメッセージを感じ取っていただければ幸いです。

(国際子ども図書館

「絵本の黄金時代1920～1930年代」展示班)



展示会「絵本の黄金時代」は  
 国際子ども図書館3階「本のミュージアム」  
 で開催しています

会 期 平成23年2月6日(日)まで  
 開催時間 9:30～17:00  
 ※休館日 月曜日、国民の祝日・休日、年末年始、  
 第3水曜日



## 走れ！ 収集ロボット インターネット資料収集のしくみ

インターネット上では、様々な情報が日々公開されては消えていきます。国立国会図書館は、これらの情報を収集・保存する「インターネット資料収集保存事業」を行っています。その作業の実際について詳しくご紹介します<sup>1</sup>。



### 1 ウェブサイトの収集

ウェブサイトの収集から提供までを作業の流れに沿って見ていきましょう。

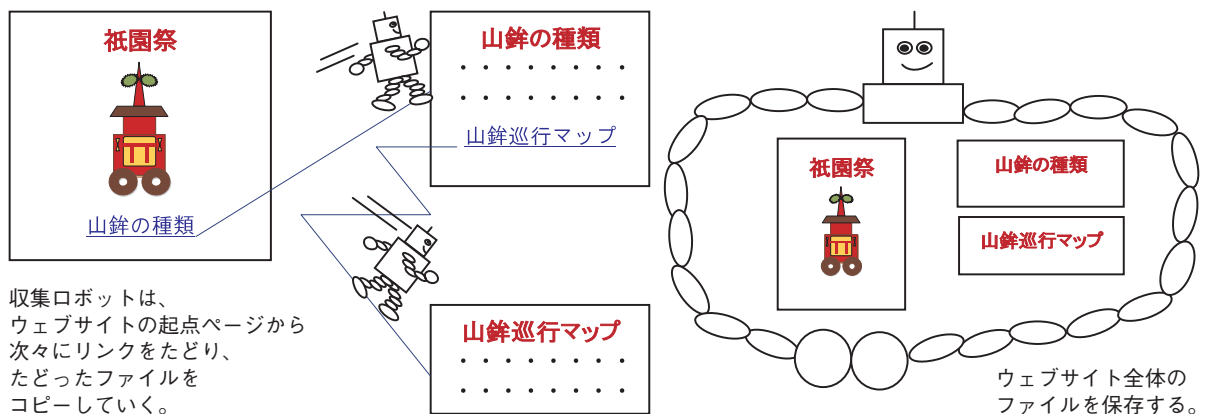
作業は、(1) 収集対象の選定、(2) 収集ロボットによる自動収集、(3) 品質検査、(4) メタデータの付与、(5) 利用提供のステップに分けられます。

#### (1) 収集対象の選定

インターネット上には様々な情報が公開されています。それらを収集する際に、どこからどこまでを一つのまとまりとして扱うかについては、境界があいまいな部分があります。これは物理的に

一つずつ区別できる紙の刊行物とは大きく異なる点です。そのため、収集の対象を選定する際には、どういうまとまりで収集するかを事前に決めておく必要があります。国立国会図書館では、「ウェブサイト」と「電子雑誌」の二つの単位で収集を行っています。

ウェブサイトについては、公的機関（国、都道府県、市町村、国公立大学、独立行政法人、特殊法人など）がインターネット上で公開しているものは、すべて収集の対象となります。これらは国立国会図書館法に基づいて収集しますので、事前に発信者の許諾を得る必要はありません。公的機関以外のウェブサイトについては、私立大学、国



際的・文化的イベント（例えば「愛・地球博」や「FIFA ワールドカップ2002」など）を選択的に収集しています。これらは事前に発信者の許諾を得る必要があります。

電子雑誌は、インターネット上で無料で公開されている雑誌を対象にしています。近年、紙媒体の雑誌が中止となり、インターネット上での公開に切り替わるケースが多くなっています。これらも図書館にとっては重要な資料であり、確実に収集して雑誌タイトルの単位で利用できるようにするため、ウェブサイトとは区別して扱います。

## (2) 収集ロボットによる自動収集

### ① 自動収集の仕組み

収集対象が決まると、クローラ（crawler）と呼ばれる収集プログラム（収集ロボット）<sup>2</sup>により自動的に収集します。収集ロボットに最初にアクセスするページのURL（以下、起点URL）を指示す

ると、ロボットはまずそのページのHTML ファイルを複製し、次にそのHTML ファイルからリンクしている文書、画像、音声、動画などのファイルを複製します。以後、リンクをたどりながら同様の動作を繰り返して、全体のファイルを保存する仕組みです（上図はイメージ）。

### ② 起点URLの設定

収集ロボットを設定<sup>3</sup>する際にはいくつかのポイントがあります。

起点URLは、対象となるウェブサイトの構成を十分に確認してから設定します。多くの場合はトップページのURLを起点URLとして設定しますが、ウェブサイトによっては、複数の起点URLを設定する必要があります。

例えば、内閣府のトップページ（次頁画面）のURLは「<http://www.cao.go.jp/>」です（2010年11月末現在）。これを起点URLに設定すると、収集ロボットは、「cao.go.jp」を含むページを、リ

<http://www.cao.go.jp/>



<http://www.bousai.go.jp/>

<http://www.gender.go.jp/>

リンクをたどって収集します。ところが、トップページからリンクが張られている「防災」のページ「<http://www.bousai.go.jp/>」や、「男女共同参画」のページ「<http://www.gender.go.jp/>」は、「[cao.go.jp](http://www.cao.go.jp/)」を含みません。したがって、これらのページも起点URLとして設定する必要があります。このように、ウェブサイトを構成するページを不足なく収集できるよう、慎重に確認しながら起点URLの設定を行います。

### ③ 収集範囲の設定

前述のとおり、私立大学やイベントなど公的機関以外のウェブサイトは発信者の許諾を得て収集しています。それぞれのウェブサイト内でどの部分を収集するかについては、許諾の条件によって決められています。したがって、部分的に許諾を得られないページがある場合には、そのページを収集しないように設定しなければなりません。ま

た、電子雑誌の場合は、雑誌本体以外の情報まで収集しないように注意する必要があります。

### ④ 収集頻度の設定

国の機関のウェブサイトの月1回、国以外の公的機関のウェブサイトは年4回、その他のウェブサイトは年1回収集します。電子雑誌については、収集もれが発生しないように、刊行頻度やバックナンバーの有無に応じて収集頻度を決めます。

### (3) 品質検査

収集したデータは、保存用のファイル形式<sup>4</sup>で保存します。さらに国立国会図書館のホームページから提供できるよう、リンクの記述を書き換える等の変換を行って閲覧用のファイルを作成します。

この閲覧用のファイルで、収集が問題なくできているかどうか品質検査を行います。おもな検査項目は次のとおりです。

- トップページが表示されているか
  - 画像が欠けていないか
  - 文字化けはないか
  - リンク先は表示されるか
  - 国立国会図書館が収集したことを示す注意書きが表示されるか(次頁右画面で黄色の部分)
- 最後の項目は、収集した過去のウェブサイトと現在のウェブサイトとを区別するためのものです。

タイトル:	タイトル	国際教育協力論叢
	ヨビ:	コクサイキョウリクキョウワカクシヨク
タイトル:	タイトルその他	Journal of International Cooperation in Education
	ヨビ:	JOURNAL OF INTERNATIONAL COOPERATION IN EDUCATION
編者:	団体名	広島大学教育開発国際協力研究センター
	ヨビ:	ヒロシマダイガクキョウカイハツコクサイキョウワカクケンキョウセンタ
公開者(出版者):		広島大学教育開発国際協力研究センター
	ヨビ:	ヒロシマダイガクキョウカイハツコクサイキョウワカクケンキョウセンタ
内容:	巻号:	Vol.1 no.1 -
	発行頻度:	半年刊 頻度数: 1
資源識別子:	URL:	<a href="http://home.hiroshima-u.ac.jp/cioe/3/00.html">http://home.hiroshima-u.ac.jp/cioe/3/00.html</a>
	ISSN:	13447998
	別メディア別ISSN:	13447996
主題:	フリーキーワード:	
	NDC:	377
資源タイプ:	NDL	電子雑誌

#### (4) メタデータの付与

メタデータとは、データに関連する情報のことです。あるデータを効率的に識別・検索するためにその特徴を記述したもので、図書の書名や著者名に当たります。

ウェブサイトには、タイトル、公開者やURLなどのメタデータを付与します。電子雑誌はそれらに加えて、巻号、ISSN (International Standard Serial Number : 国際標準逐次刊行物番号)、NDC (Nippon Decimal Classification : 日本十進分類法) 分類などの情報も付与します (上画面)。

#### (5) 利用提供

品質検査を行い、メタデータの付与が終わったら、保存したコンテンツを利用できるようにする準備をします。

利用提供にあたっては、許諾条件により提供範囲が制限されている場合がありますので、条件に合わせて設定を行います。例えば「特定のページのみ、館内での閲覧は可だが、インターネット提供は不可」という条件であれば、そのとおりになるよう慎重に作業を行います。

以上の作業を経たコンテンツは、国立国会図書館ホームページの「インターネット資料収集保存事業 (ウェブサイト別)」 (<http://warp.dandl.go.jp/>) で検索・閲覧することができます。キーワードによる検索のほか、分野や機関の種類別で一覧することもできます。

次頁左画面の「書誌情報」がメタデータです。「収集個体」は実際に収集して保存したコンテンツのことです。年月日をクリックすると、その時点のウェブサイトを観覧することができます。次頁右





画面は、2007年3月12日に収集した京都府相楽郡加茂町のウェブサイトです。加茂町は同日に木津町、山城町と合併して木津川市となったため、現在このウェブサイトは存在しません。このように、インターネット上から消えてしまったウェブサイトを過去にさかのぼって見られることが、大きな特長です。

## 2 著作物の収集

インターネット上では、白書や統計資料など紙の刊行物に相当するものが数多く公開されています。紙の刊行物がデジタル化されたものや、最近では電子情報のみで公開されるものも増えてきています。国立国会図書館ではこれらを「インターネット上の著作物」と呼んでいます。

これらの著作物を探すとき、検索エンジンを使

うと、あまりにも多くの情報がヒットしたり、書名や著者名などに不備があるなどして、うまく探し出せなかったりした経験はないでしょうか。

図書館は長い間、主に紙の刊行物を収集し、その目録を作成することで、利用者が求める情報を効率的に入手できる手段を提供してきました。この役割をさらに押し広げて、インターネット上の著作物に対しても、効率よく探し出せる手段を提供することは、刊行物の電子化が急速に進むなかで、図書館の果たすべき重要な役割の一つといえます。そうした認識のもと、国立国会図書館は、インターネット上の著作物を取り出して保存・提供するサービスも行っています。

### (1) 著作物の取り出し

インターネット上の著作物の多くは、PDF、

Word、Excelなどのファイル形式で作成されています。著作物を取り出すにあたっては、収集ロボットを使って自動収集したウェブサイトの中から、これらのファイルが置かれているページのURL等の情報を抽出しリスト化します。そして、そのページにアクセスして、ファイルの内容を1点ずつ確認し、国立国会図書館が定める著作物の基準（下表）に該当するものを、書名、著者名、発行日などのメタデータを付与した上で保存します<sup>5</sup>。

1 年鑑、要覧及び職員録	10 政策評価書
2 業務報告	11 財務諸表
3 予算書及び決算書	12 調査報告書
4 統計資料	13 学術上の論文に係る出版物
5 官報、法令集、規則集及び判例集	14 広報資料
6 法律解説書	15 講演会、展示会等の関係資料
7 目録及び書誌類	16 審議会等の関係資料
8 議会資料	17 その他前各号に準ずる出版物
9 基本計画書	

表 インターネット上の著作物の基準  
 「国立国会図書館法第二十五条の三第三項のインターネット資料等に関する件」（平成22年1月22日国立国会図書館告示第1号）

現在のところ国の機関のウェブサイトに掲載されている著作物を中心に作業を進めていますが、これだけに限ってみても、1か月の間に数10万件のファイルが候補として取り出されます。そのうち実際に保存の対象となるのは、約6%です（平成22年9月現在）。

なお、収集ロボットで自動収集できない著作物があった場合には、発信者にファイルの送付を依頼します。

## (2) 利用提供

このようにして保存された著作物は、「インターネット資料収集保存事業（著作別）」（<http://warp2.dandl.go.jp/>）で検索・閲覧することができます。書名や著者名などによる検索のほか、分野別や機関の種類別に一覧することもできます。

画面の上部には簡易なメタデータが表示されます。下部の「本文」にあるファイル名をクリックすると、本文を閲覧することができます（次頁画面）。

## 3 インターネット上での公開と複写サービス

このようにして収集したインターネット資料は、国立国会図書館内で閲覧することができます。

さらに、発信者の許諾が得られたものは、インターネットを通じて館外にも公開しています。また、発信者の許諾が得られたものに限り、平成23年度から紙に複写するサービスを提供する予定です。

多くの方々により便利に利用していただくため、発信者に対して許諾をいただけるよう、積極的に依頼を行っています。

## 4 今後の課題

これまでに収集したインターネット資料の総数は、ウェブサイト10,754件（2,727タイトル）、電子雑誌12,358件（1,963タイトル）、著作物21,652タイトルです（平成22年11月末現在）。収集はおおむね順調ですが、いくつか課題もあります。



収集した資料を保存するには、そのための記憶装置（ストレージ）が必要です。今年4月から開始した公的機関のウェブサイトの網羅的な収集により、収集量が急激に増加し、保存すべきデータの容量も増えています。しかし、費用の関係などから用意できるストレージは限られているので、保存データの容量はできるだけ抑えなければなりません。対策の一つとして、毎回の収集時に、前回の収集分と比較して変化があった部分のみを収集・保存する方法を検討しています。

また、ソフトウェアの更新など技術的な環境の変化にともない、現在利用できるコンテンツが、将来利用できなくなってしまう恐れがあります。収集したコンテンツをそのまま保存するだけでなく、将来にわたって利用できるよう技術開発を行っていくことも、今後取り組んでいかなければならない重要な課題です。

インターネット上にはほかにはない貴重な情報が数多く存在しており、それらは後世に伝える価値のある文化遺産といえます。国立国会図書館は、現在および将来の世代がこれらの文化遺産を確実に利用できるようにするため、これからもインターネット資料の収集と保存に努めていきます。

(関西館電子図書館課)

- 1 過去の経緯と事業の概要については、本誌593(2010年8月)号 pp.22-25参照。
- 2 Internet Archive (ウェブアーカイブを行う米国のNPO) が中心となって開発したHeritrixを使用 (<http://crawler.archive.org/>)。
- 3 収集を管理するソフトウェアは、英国図書館(BL)とニュージーランド国立図書館が共同で開発したWeb Curator Tool (WCT) を使用 (<http://webcurator.sourceforge.net/>)。
- 4 WARC (Web Archive file format)。ウェブアーカイブで採用される保存用のファイル形式で、国際標準化機構の国際規格"ISO 28500:2009"でもある。
- 5 マサチューセッツ工科大学図書館とヒューレット・パッカード研究所が共同で開発したDSpaceを一部カスタマイズしたソフトウェアを使用 (<http://www.dspace.org/>)。

## 国民読書年をふりかえって

「～しなさい」と言われると、やろうと思っていることもやりたくなくなるということはありませんか？好きなことでも、強制されると嫌いになることもありますよね。そのためか、最近は読書が苦手な子に「本を読みなさい」と言うのではなく、親自身が読書を楽しむ姿を見せましようと言われるようになりました。

国会の決議により2010年が「国民読書年」と決まり、2009年、国立国会図書館でも関連のイベントを開催するための実行委員会が立ち上がりました。それらをどのように広報すべきか、総務課広報係は頭を悩ませていました。国から強制されているように感じてしまったら、かえって読書嫌いになってしまうのでは…。

まず、国民読書年をアピールするポスターを作成しました。本が積み重ねられたデザインで(写真)、日本の出版物を広く収集・保存するという国立国会図書館の役割を表したものです。ここで、日本の読書文化を支える大黒柱として、楽しみながら読書のさまざまな側面について考える場を提供する、という方針が固まりました。

6月にはシェイクスピア作「マクベス」の朗読会で、演劇集団「円」による朗読、上智大学の小林章夫教授による作品解説のほか、明治期以降のシェイクスピアの翻訳作品の展示により、翻訳文学の楽しみをご紹介します。10月

のシンポジウム「読書とはなにか」では松岡正剛氏らの講演により、読書そのものについて考える場を、12月の国際シンポジウム「本を

読むという文化」では、リービ英雄氏らの講演により、著作物へのアクセスについて考える場を設けました。このほか、ロジェ・シャルチエ氏の書物に関する講演会や展示会、落語会、読み聞かせ講座などさまざまなイベントが開催されました。

そして、国立国会図書館の国民読書年を支えたこのポスターは、第50回「消費者のためになった広告コンクール」の公共広告部門に入賞しました。

国民読書年は終わりますが、多くの方のこれからの読書につながる何かを残せていたら嬉しいです。そして、これからも読書文化を支える国立国会図書館の役割を伝えていかなければ、と思いました。

(総務課広報係 caiman)



# 世界図書館情報会議－第76回国際図書館連盟(IFLA)大会 知識へのオープンアクセス 持続的な発展の促進に向けて



2010年8月10日から15日にかけて、「世界図書館情報会議－第76回国際図書館連盟(IFLA)大会」が、スウェーデンのヨーテボリで開催されました。121か国から3,300名以上が参加したこの大会に、国立国会図書館からは、長尾真館長を団長とする代表団7名が参加しました。

IFLAは、1927年に創設された図書館および情報サービスに関する世界最大の組織です。テーマ別に設けられた40以上の分科会や、資料保存、著作権等法律問題といったコア活動などを通じて、世界の図書館界の様々な課題に取り組んでいます。

今年の大会は「知識へのオープンアクセス－持続的な発展の促進に向けて」をテーマとして開催されました。大会初日には2010～2015年の戦略

計画が公表され、①情報への平等なアクセス、②IFLAの機能向上、③専門職制の変革と地位の向上、④IFLAメンバーである図書館および類縁機関、さらにその利用者の利益代表者となる、の4点を中心に目標と行動計画が示されました<sup>1</sup>。また、8月12日には第37回国立図書館長会議(CDNL)が開催されました。

2011年の大会は、サンファン（プエルトリコ）で、2012年の大会は、ヘルシンキ（フィンランド）で開催される予定です。

（国立国会図書館IFLAヨーテボリ大会派遣団）

<sup>1</sup> IFLA Strategic Plan 2010-2015 (<http://www.ifla.org/files/hq/gb/strategic-plan/2010-2015.pdf>)

## ■ 国際的な調査協力体制への課題

議会のための図書館・調査サービス分科会

### (1) プレコンファレンス

議会のための図書館・調査サービス分科会（以下、議会図書館分科会）の第26回プレコンファレンスは、「議会の知識へのオープンアクセス」をテーマにストックホルムのスウェーデン議会において8月6日から9日にかけて開催されました。55か国から約150名の参加がありました。

会議では議会図書館・調査部門と外部機関との連携、EUやアジア太平洋地域などでの協力体制などについて、報告と活発な討論が行われました。ワークショップ等では、議会のための調査の質を向上させるためにはどのような方策があるのか、また、カナダ議会図書館における経済や予算に関する専門的な分析部門の現状を例に、適切な分析



スウェーデン議会旧第二院議場

議会図書館分科会のプレコンファレンスは、スウェーデン議会の旧第二院の議場を会場として開催されました。スウェーデン議会は、1971年に二院制から一院制に移行しました。現在の本会議場は大変明るく現代的なものですが、旧第二院の議場はクラシックな木製の内装で、ステンドグラスの天井、スウェーデンの歴史が描かれた壁画、真っ赤な布張りの椅子など、とても美しい装飾が印象的でした。（廣瀬）

能力を備えた人材確保の困難さなどさまざまな意見交換がありました。

### (2) IFLA大会

議会図書館分科会は、8月14日に「オープンアクセス



分科会で報告する筆者  
Ross Becker氏撮影

とデジタル資源：民主主義を支援する知識へのアクセスを提供する図書館」というテーマで開催されました。筆者は、「日本の国会の将来と国会サービスの改善」<sup>2</sup>と題して、国立国会図書館の国会議員向けの調査サービスの現状と課題、将来計画等に関する報告を行いました。ほかに、ウガンダ、イラン、ブルキナファソ、イギリス、ニュージーランドの報告があり、途上国からは、議会制民主主義の定着のために、議会図書館の役割が大きいことが共通して報告されました。

日本の報告に対しては、各国の出席者から、多様で高度化する調査依頼への迅速な対応など、日本と共通の課題が多いとの声がありました。日本からの報告は今回1件のみでしたが、今後積極的に報告してゆく必要性を痛感しました。

### (3) 議会図書館分科会常任委員会

議会図書館分科会の常任委員会では、新しい戦略プランの策定等が議題となりました。また、列国議会同盟（IPU）による各国の議会制度に関するデータベース「PARLINE」<sup>3</sup>の構築や国際的な調査協力などが課題として挙げられました。

国際的な協力体制の必要性は参加国間で広く認

### ダンシングクイーン

IFLA大会開会式は、スピーチの合間にギターとボーカルによる演奏が行われるなど、リラックスした雰囲気の中進行しました。そして、所定の次第が終わったところで、70年代風の白っぽい衣裳に身を包んだ（女性の服は超ミニ！）、男女各2の4人組が登場。こ、これは、ABBA！？しかし、アバだったらこんな若くないはず…。後でIFLAのウェブサイトを見たら、Waterloo（アバのヒット曲のタイトルでもあります）というアバのトリビュートバンドでした。近年アバの楽曲で構成されたミュージカルが映画化されたこともあってか、会場は大盛り上がり。もし日本だったら、こんなに世界の人に知られた音楽があるかしら、とちらっと思った夜でした。

(木藤 淳子 総務部管理課長)



識されていますが、英語圏と非英語圏では、協力への負担感に大きな差があります。特に国内で英語資料の流通が少ない非英語圏では、資料の英訳が負担となっています。また、特定の国に一方的に調査依頼が集中し、片務的な協力体制となることへの懸念も強く表明されていました。

(廣瀬 淳子 調査及び立法考査局海外立法情報課長)

## ■ 書誌データの開放に向けて

### 書誌分科会、目録分科会

目録、書誌に関する常任委員会やセッションでは、大会テーマ「知識へのオープンアクセス」に沿い、書誌データとその作成にかかわる規則をオープンアクセスなものとし、ウェブ上で活用しやすい形で提供する取組みが示されました。

書誌分科会のテーマは、全国書誌<sup>4</sup>の提供のあ

り方です。昨年IFLAでは、指針として『電子時代の全国書誌』<sup>5</sup>が刊行されたばかりです。セッションではセルビア、ドイツ、ポーランドの取組みが紹介されました。各国では、ウェブサイトやデータベースなどのオンライン出版物も全国書誌に収録し始めています。また、その提供方法は、従来は冊子体やその電子版でしたが、多様な項目から検索できるオンラインデータベース化、例えば論文集における個々の論文などの「構成レベル」の情報や付加的情報へリンクするなど、より利便性の高い方向に移行しつつあります。書誌データを一定の条件のもとでダウンロード可能としている国も多く見られました。

今回の大会では、情報技術分科会、目録分科会、分類・索引分科会、知識マネジメント分科会によるセマンティック・ウェブ<sup>6</sup>とその活用に関する

2 The Japanese Diet (Parliament) of the future and the progress of the services to the Diet. (<http://www.ifla.org/files/hq/papers/ifla76/141-hirose-en.pdf>)

3 <http://www.ipu.org/parline/parlinesearch.asp>

4 ある国の出版物（広義にはその国に関する著作やその国の言語で書かれた出版物等を含む）の記録。

5 IFLA Working Group on Guidelines for National Bibliographies, Maja Zumer (ed). *National bibliographies in the digital age : guidance and new directions*. München : K.G. Saur 2009

6 ウェブサイトなどの情報資源に、コンピュータが自動処理を行える形のメタデータ（タイトル、データ形式など、その情報資源に関するデータ）を付与することでより高度な情報検索を行うという考え方。

4時間に及ぶ合同セッションが開催されました。国立国会図書館でも、セマンティック・ウェブに対応した形式で件名標目表を提供する<sup>7</sup>などの取組みに着手したところで、このセッションの内容は参考になりました。

誰もが情報提供者となりえる現在、様々な情報資源があふれ、図書館の存在意義が問われています。セッションでは、目録・書誌、主題分析など、図書館がこれまで培ってきた書誌サービスの技術をウェブの世界で活用することで、情報流通において図書館の新たな役割を見出そうとしていました。セッションでは「図書館のデータはセマンティック・ウェブの世界において情報の確かさの支柱となりうる」という発言がありました。

目録の世界は、国際標準書誌記述 (ISBD)<sup>8</sup>統合版の改訂といった、国際的基盤となる規則の変革期にあります。特に注目すべき動向としては、検討主体のワーキンググループが、改訂を機に規則自体をRDF/XML化し、インターネット上で公開しようとしていることが挙げられます。

あずま ひろこ  
(東 弘子 収集書誌部収集・書誌調整課)

## ■ 資料保存と災害、環境、最新技術

資料保存コア活動、資料保存分科会関連会議

筆者は、資料保存コア活動(PAC)<sup>9</sup>ビジネスミー

ティング(8月10日)と資料保存分科会常任委員会(8月10日、14日)と関連のセッションおよびサテライトミーティングに参加しました。

PACビジネスミーティング(PACセンター長会議とPAC諮問委員会の合同会議)では、今後の活動についての議論のほか、PACの主要課題である災害が取り上げられました。ハイチ大地震<sup>10</sup>についてブルーシールド国際委員会<sup>11</sup>とハイチ政府との間で支援協定が交わされたことや、中国青海省大地震<sup>12</sup>により170余の公共図書館が被災し、北京大学図書館の司書等のボランティアにより支援が行われたことなどが報告されました。

ハイチ大地震については「ハイチについてのアップデート・セッション」も行われました。ハイチ国立図書館の防犯カメラが捉えた地震発生時の映像が放映されました<sup>13</sup>。書架がなぎ倒され、塀などが倒壊する光景が映し出されましたが、ハイチ国立図書館長の報告では、実際はもっとひどかったということでした。修復ボランティアの募集や可能な方法での支援が呼びかけられ、多数の参加者から支援の意思表示がありました。

資料保存分科会常任委員会では、来年のIFLA



7 Web NDLSh (<http://id.ndl.go.jp/auth/ndlsh>) 詳しくは、本誌591(2010年6月)号 pp.10-14参照。

8 図書館目録として記録すべき要素の種類とその記録の順序等について国際標準を定めたもの。

9 IFLA Core Activity on Preservation and Conservation 国際センター(フランス国立図書館)を中心に世界各地の国立図書館等に置かれた14のセンターが、地域性とそれぞれの得意分野を生かして、資料保存のための世界的な協力に取り組んでいる。

10 2010年1月12日、ハイチ共和国で発生したマグニチュード7.0の地震。

11 International Committee of the Blue Shield 武力紛争や自然災害などの災害から文化遺産を保護することを目的とした団体で、IFLAなどの文化財保護に関する五つの非政府機関で構成される。

12 2010年4月14日、中国青海省玉樹チベット族自治州玉樹県で発生したマグニチュード7.1の地震。

13 IFLAのウェブサイトで見ることができる。<http://www.ifla.org/en/haiti-earthquake-2010#security-camera-footage>



### ヨーテボリの街

ヨーテボリはストックホルムに次ぐスウェーデン第二の都市ですが、東京とは大違い、高層ビルはIFLA年次大会の会場になった建物だけで、レンガ色を基調とした古い街並みでした。通りにはトラムが走り、自転車に乗っている人もよく見かけました。一方、街には新しいオープンエアなどのカフェがたくさんあり、夕方になると大入り満員で明るい夜を楽しんでいるようでした。サマーシーズンだったため、博物館の前で毎晩遅くまでライブ演奏も行われていました。(中村)



年次大会オープンセッションのテーマについて、音楽映像資料の保存などが提案されました。

資料保存分科会、PAC、環境の持続可能性と図書館SIGの合同オープンセッション(8月12日)は「資料保存と持続可能性」がテーマで、英国図書館からは、良好な保管環境、防災、省エネルギー等の要件を兼ね備えたボストンスパの新書庫が紹介されました<sup>14</sup>。またミラノ市公文書館とロンバルディア州立図書館から資料防災計画策定についての具体的な提言がなされる<sup>15</sup>など6件の報告がありました。

サテライトミーティングは資料保存分科会と貴重書および写本分科会との共催により、ウプサラ大学<sup>16</sup>で行われました。「古い資料のための新しい技術－保存と本の歴史のための科学的検証－」をテーマとし、手稿本の刊行時期や場所等について羊皮紙のDNA分析により調査する方法、資料の状態に関するデータを瞬時に非破壊検査方法で把握する光学検査機械の紹介などがありました。

以上、災害の多発や省エネルギー政策等を背景とした資料保存対策、また、保存科学における最新技術の活用例など世界的傾向を知り得たことは、資料保存活動を進めていく上で大変有意義でした。

(中村 規子 収集書誌部司書監)

### ■ 「ゴッドマザーになりたい人は？」

#### 児童・ヤングアダルト図書館分科会

ゴッドマザーといっても、マフィア関係ではありません。冒頭の呼びかけは、児童・ヤングアダルト図書館分科会(以下、児童YA分科会)常任委員会の席上での発言、ゴッドマザーとは同分科会が取り組んでいる姉妹図書館プロジェクトの世話人のことなのです。筆者は、児童YA分科会の常任委員会委員として、関連の会合に参加しました。

#### (1) 常任委員会

「姉妹図書館」は児童YA分科会が主催するプロジェクトで、言語が同じで国が異なる二つの図

14 <http://www.ifla.org/files/hq/papers/ifla76/88-novotny-en.pdf>  
15 <http://www.ifla.org/files/hq/papers/ifla76/88-bertini-en.pdf>  
16 1477年に創立された、スカンジナビア最古の大学。カロリナ・

レディヴィヴァ(Carolina Rediviva)という図書館では、書棚にして3500m分の手稿本を所蔵。



セルビアとドイツの姉妹館では、手作りミニ絵本を交換。セルビアの子どもたち（左）と彼らの作った絵本（右）。  
 IFLA Libraries for Children and Young Adults Section. *SCL News*. (72) 2010.6 p.14  
<http://www.ifla.org/files/libraries-for-children-and-ya/newsletters/june-2010.pdf>

書館が姉妹として組み、双方の利用者である子どもたちが、共通言語で本にまつわる活動をして国際交流する、というものです。8月10、13日に開催された常任委員会では、プロジェクトの進捗と今後の計画について話し合われました。

昨年の11月に参加館募集を始めて以来、85館からの応募があり10組の「姉妹」が誕生しました。互いの図書館を紹介しあい、互いの国の絵本をまず1冊交換して読みあう、という方法で交流を始めている館もありますが、具体的な活動に踏み出せていないケースもあります。「姉妹」の共通言語がわかる委員がゴッドマザーとして姉妹の活動に助言をしていますが、今後はマザーの人数を増やして助言活動を強化することになりました。

## (2) オープンセッション

児童YA分科会は、今回二つのオープンセッション

を行いました。8月13日に開催された学校図書館・リソースセンター分科会との合同セッションは、学校図書館と公共図書館の協力がテーマで、デンマーク、スウェーデン、米国、ジャマイカからバラエティに富んだ事例が披露されました。

デンマークでは2009年、学校図書館と公共図書館の連携のもと、よりよい図書館サービスを提供しようという国家プロジェクトが始まりました。コルディング市の事例「組んで最強：一人の子どもに二つの図書館…それより少なくはダメだから！」では、資料の購入や装備のシステムを共通化することでサービスの充実と経費節減を実現したこと、双方の司書が互いの職場を体験しあって相互理解を深めたことなどが紹介されました。行政当局や政治家に協力の意義を伝えるためのプロモーションビデオの上映もあり、政策決定

に携わる人々への説明・説得の成功例として喝采をあげました。

8月15日開催の多文化社会図書館サービス分科会との合同セッションでは、スペイン、南アフリカ、中国、ポーランドから、移民が多い地域の子どものための多文化サービスの実践事例が発表されたほか、児童YA分科会常任委員会のメンバーが、姉妹図書館プロジェクトについて紹介しました。

このセッションの直後に、フィンランドの参加者から「日本の図書館と姉妹になって日本語で交流したい」と声をかけられました。すでに日本のある町と姉妹都市になっているけれど、さらに別の交流活動もしたいとのこと。日本からの参加者数人で話を聞き、相手を探すことになりました。どんな姉妹が誕生するか、楽しみです。

こばやし なおこ  
(小林 直子 国際子ども図書館児童サービス課長)

て、英国図書館が実施主体となりCDNL参加館全体を対象とした電子媒体の納本に関する調査を実施することになっています。

今回を最後に退任するカーナビ議長（ニュージーランド）は、形骸化しがちであったCDNL会合の活性化に努めた4年間の任期を振り返り、デジタル図書館のビジョンの構築のための議論等を通して、連携協力・支援の意識の高まりを感じたと述べました。

オブザーバーのIFLA会長からは、IFLAにとって、著作権問題への取組みが戦略的に最も重要になってきているという報告がありました。また、英国図書館等からIFLAのコア活動について、デジタル図書館の構築等、情報技術の進展にあわせた新たな展開を望むという強い指摘がありました。

(ローラー ミカ 総務部支部図書館・協力課長)

## ■ 第37回国立図書館長会議（CDNL）

8月12日に開催された今年の国立図書館長会議（CDNL）には、50数か国の国立図書館長（代理を含む）が出席し、国立国会図書館からは長尾真館長が参加しました（筆者が同行）。

「自然災害からの復興」をテーマとする各国報告では、四川大地震等を経験した中国から災害バックアップセンター計画について紹介がありました。

会議では、電子納本、著作権、リテラシーの三つの小グループに分かれての議論が行われました。特に電子納本のグループには、長尾館長も含め、最も多い27名の参加がありました。このグループの提言をうけてCDNLでは、来年へ向け



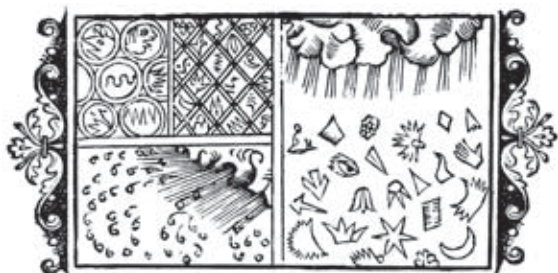
代表団 左から 東、木藤、小林、長尾、廣瀬、中村、ローラー

## 第7回 雪 — 冬に咲く華

四季に恵まれた日本では、今の季節にだけ咲く花があります。天から降り注ぐ真白な花、雪華です。雪の結晶には一つとして同じ形がなく、またその美しさから、花にたとえられてきました。結晶の形は、6枚の花びらを持つように見える樹枝状がよく知られていますが、他にも鼓型、角錐状、針状などの様々な形状があります。また、雪ははかなく美しいだけでなく厳しく冷たい一面もあわせもち、私たちに様々な姿を見せてくれます。今回の展示では、その不思議な力に魅せられた人々が残した本をご紹介します。

雪の結晶が六方対称をなしていることは今でこそよく知られていますが、まだ顕微鏡もなかった時代には、雪はどのような姿をしていると考えられていたのでしょうか。そして、最初にそれに気がついたのは誰だったのでしょうか。

現在残っている最も古い雪のスケッチは、16世紀のウプサラの大司教オラウス・マグヌス (Olaus, Magnus 1490-1557) によるものです。1555年に出版された *Historia de gentibus septentrionalibus* (1) には、北欧における地理や文化がまとめられており、雪のスケッチが描かれています。現在のイメージとは異なり、王冠や手のような形をしたものまであります (下図)。

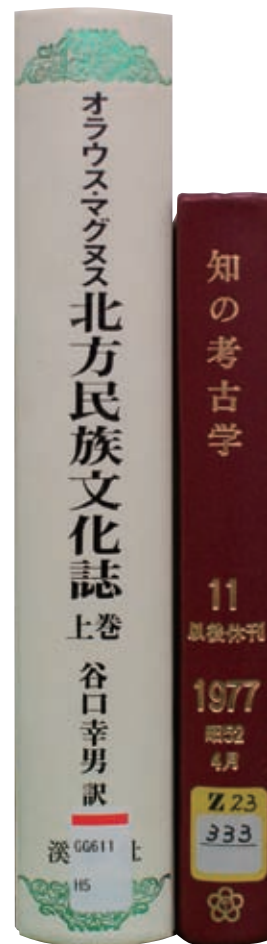


1 p.82から

雪の結晶が六方対称であることを初めて認識したのは、天文学者ケプラー (Kepler, Johannes 1571-1630) であるとされています。パトロンであるウァッケリウスに捧げられた小論文「新年の贈り物あるいは六角形の雪について (*Strena, seu, De nive sexangula*)」(2) には、様々なものに見られる六角形の特徴を詳述し、その秩序と安定性について、造物主たる神の意図によるものだと説明しています。

1 オラウス・マグヌス〔著〕  
谷口幸男訳 『北方民族文化誌  
上巻』 溪水社 1991年  
<請求記号 GG611-H5>

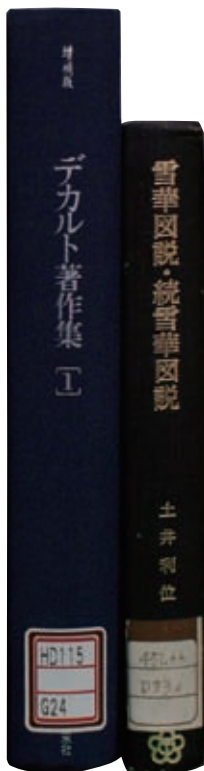
2 ケプラー原著 榎本恵美子  
訳『新年の贈り物あるいは六角  
形の雪について』『知の考古学』  
(11) 1977.4 社会思想社  
pp.276-296  
<請求記号 Z23-333>





17世紀の前半には多くの学者が雪の結晶に興味をもち、研究が進められました。哲学者としてはもとより、数学者・科学者としても有名なデカルト (Descartes, René 1596-1650) も、1635年にアムステルダムで雪を観察し、スケッチしています(「気象学」(3))。デカルトは、観察の度に雪の結晶の形が違うことに気づき、それぞれの種類の雪についてその生成条件や生長過程を考察しました。彼もまた観察した雪の結晶の一部を花にたとえ、「小さな薔薇の花」と表現しています。

一方日本では、平安時代から雪は「六つの花」と呼ばれ、文学作品の中でよく使われていました。しかしそれは中国から輸入した知識によるもので、実際に雪の結晶が六方対称であることは認識されていなかったようです。日本で雪の研究が科学的に行われるようになったのは、江戸時代に西洋の学術・知識が伝わってからのことです。医学や物理学の書物に加え、顕微鏡が入ってくると、蘭学者たちにより雪の観察が行われるようになりました。顕微鏡で見た雪の結晶図の本が出版されると、雪の結晶が繊細で美しい形をしていることが世間に広まって、着物の柄に使われるなど、当時のファッションにまで影響を及ぼしました。



3 デカルト [著] 『デカルト著作集 1』 増補版 白水社 2001年  
<請求記号 HD115-G24>  
赤木昭三訳「気象学」を収録。

4 土井利位著 『雪華図説・続雪華図説』 築地書館 1968年  
<請求記号 451.66-D83s>  
「雪華図説」は北海道大学低温科学研究所所蔵加納文庫版、「続雪華図説」は小林義正所蔵高嶺文庫版の復刻版を収録。

下総国古河藩主、土井利位<sup>としつら</sup> (1789-1848) は、蘭学者であった家老の鷹見泉石の協力を得て、大坂、京都などで長年に渡り雪の結晶の観察を続けました。利位が天保3 (1832) 年に顕微鏡を用いて描いた雪の結晶図集『雪華図説』(4) は、98種の雪華図とともに、雪の生成の物理、結晶の観

察法、雪の効用などについて紹介したものです。彼の雪華図（次頁）は、自然に忠実なものであると同時にデザインとしても優れていました。

越後の国塩沢に生まれた鈴木牧之（1770-1842）が天保8（1837）年に雪国の風俗・習慣について書いた『北越雪譜』（5）には、初編の「雪の形状」という章で、「<sup>むしめがね</sup>驗微鏡を以て<sup>ゆきのかたち つまびらか</sup>雪状を審に視たる図」として、上述の『雪華図説』から雪華図が引用されています。本書の内容は雪の科学から雪国の行事まで幅広く、挿絵（原画は牧之、仕上げは山東京伝の弟の京山）も豊富で、当時のベストセラーとなりました。さらに『雪華図説』もこの本を通じてたいへんな評判となりました。

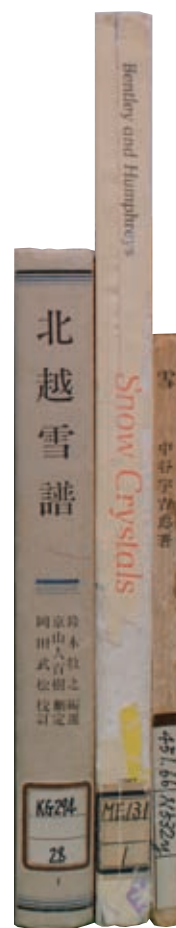
19世紀に入ると、顕微鏡写真という技術によって、雪の研究はさらなる発展を遂げます。アメリカ・バーモント州のベントレー（Bentley, Wilson Alwyn 1865-1931）の写真集 *Snow crystals* (6) には、顕微鏡写真の技術を使って撮影した雪の結晶が掲載されています。専門的な科学書ではありませんが、過去に類を見ない結晶の美しさと種類の豊富さは世間から注目を浴び、多くの気象学の本などに写真が引用されました。ベントレーがその生涯を捧げて残した作品は実に5千枚以上にものぼり、彼は後に“Snowflake Man”と呼ばれました。

その写真集に影響を受けた一人、中谷宇吉郎（1900-1962）によって、昭和11（1936）年、世界で始めて人工雪の結晶が生まれました。雪の研究

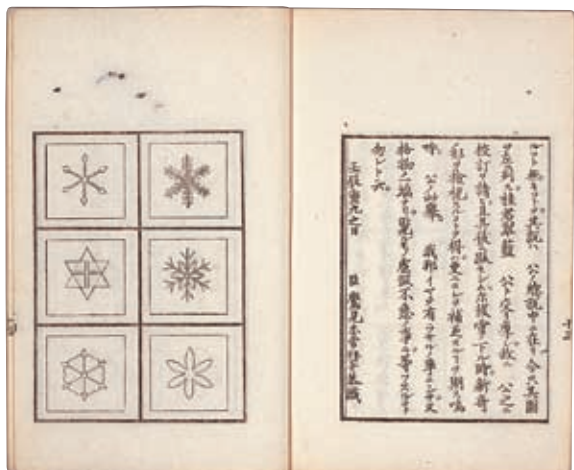
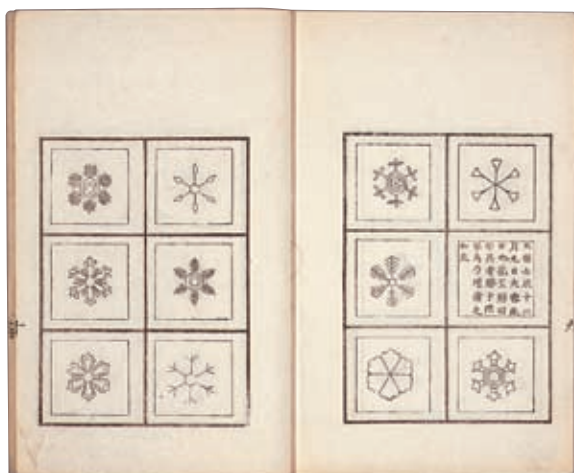
5 鈴木牧之編選、京山人百樹刪定、岡田武松校訂『北越雪譜』岩波書店 1982年  
<請求記号 KG294-28>

6 *Snow crystals* / by W.A. Bentley and W.J. Humphreys. New York : Dover Publications, [1962].  
<請求記号 ME131-1>  
1931年刊の復刻。

7 中谷宇吉郎著『雪』岩波書店 1945年  
<請求記号 451.66-N532y>



5 6 7



土井利位著『雪華図説』 天保3 (1832) 年  
 <請求記号 特1-2982> 上 9-10丁 下 13-14丁  
 『雪華図説』に収録された雪華図は、土井利位の観察図86種と、オランダの牧師 J.F. Martinet の科学入門書『格致問答』(*Katechismus der natuur*)からの引用図12種からなる。詳しくは、電子展示会「江戸時代の日蘭交流」[第2部 4. 海外知識の受容 (1) 異国を知る]参照。国立国会図書館ホームページ (<http://www.ndl.go.jp/>)>電子展示会>江戸時代の日蘭交流 ([http://www.ndl.go.jp/nichiran/s2/s2\\_4\\_1\\_2.html#h5\\_4](http://www.ndl.go.jp/nichiran/s2/s2_4_1_2.html#h5_4))。

者として有名な中谷ですが、文才にも恵まれ、たくさんの随筆や一般向けの科学書を書いています。中でも『雪』(7)は、科学を新書の形で説いた最初の本としても有名です。北海道十勝岳での自然雪の観察や人工雪の作成など、雪の結晶についての研究がどのように行われたかがわかりやすく書かれています。

「このやうに見れば雪の結晶は、天から送られた手紙であるといふことが出来る。そしてその中の文句は結晶の形及び模様といふ暗號で書かれてゐるのである。その暗號を讀みとく仕事が即ち人工雪の研究であるといふことも出来るのである。」(pp. 156-157)

科学技術はめざましく発展を遂げていますが、雪の謎めいた美しさはまだ私たちを魅了し続けてくれます。今年の冬は皆さんも、雪の結晶の世界をのぞいてみてはいかがでしょうか。

(主題情報部参考企画課、総務部総務課)

※この記事は、平成16年から17年にかけて行った第134回常設展示「雪-冬に咲く華-」をもとにしています。これまでの常設展示については、国立国会図書館ホームページ (<http://www.ndl.go.jp/>)>調べ案内>リサーチ・ナビ>本の万華鏡>過去の常設展示一覧 (<http://navi.ndl.go.jp/kaleido/back.php>) をご覧ください。



※この写真は、国立国会図書館の所蔵資料を撮影したもので、実際の装丁とは異なる場合があります。

# 本屋に ない本

国立国会図書館は、法律によって定められた納本制度により、日本国内の出版物を広く収集しています。このコーナーでは、主として取次店を通さない国内出版物を取り上げて、ご紹介します。

## 石井桃子展

世田谷文学館編・刊  
2010.2 94、37頁 21cm <請求記号 KG546-J42 >

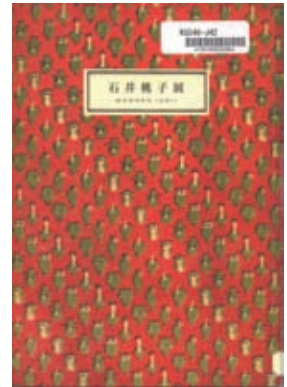
日本は「子どもの本」に恵まれた国である。作品そのものと作品に触れる環境の両面において。また、子どもたちと子どもの読書を支援する大人たち双方にとって。それは、石井桃子の存在があったからといえるのではないだろうか。

本書は、2010年2月6日から4月11日まで世田谷文学館で開催された、没後初の回顧展となる石井桃子展の図録である。21cmと図録にしては判型が小さく感じられるのだが、石井が友人と一緒に設立した白林少年館から1941年に出版した『ドリトル先生「アフリカ行き」』の装丁を模しており気が利いている。この本は、井伏鱒二の名訳で知られるが、石井が下訳を担当したものである。

石井の生い立ちから児童文学との出会い、海外への留学、文庫での活動、晩年の創作活動と時代を追う構成だが、石井本人の雑誌への寄稿文や書簡、関係者が寄せた文章が散りばめられており、その幅広い業績や人柄を知ることができる。巻末に資料編として、詳細な年譜と著作一覧が掲載されているのも有用である。

誰しも子どもの頃は、本を読む際に作者が誰かなど気にしないものであるが、『クマのプーさん』、「うさこちゃん」シリーズ、『ちいさいおうち』（翻訳）、『ノンちゃん雲に乗る』（創作）、「日本少国民文庫」、「岩波少年文庫」シリーズ（編集）など、石井の手による作品にそうと知らずに親しんで育った人は多いはずである。2006年に出版された『百まいのドレス』は、

自身が1954年に出版した『百まいのきもの』を時代に合わせ、現代の子どもたちに手に取ってもらえるよう改訳したものであり、翻訳に手を入れ続けた石井が最後に手がけた作品としてふさわしく思われる。



また、海外留学で児童図書館や児童文学研究について学んだ石井は、帰国後、児童文学研究書やブックリストの作成に取り組む。瀬田貞二らとISUMI会（子どもの本研究会）を始め、ここから、今も読み継がれている『いやいやえん』（中川李枝子著、大村百合子絵）が誕生し、ブックリスト『私たちの選んだ子どもの本』が創刊された。児童図書館員が優れた本を選び、揃え、子どもたちに本を読む楽しみを伝えることの大事さを学んだ石井は、荻窪の自宅にかつら文庫を開設し、「家庭文庫研究会」を結成する。他の文庫との交流だけでなく、文庫にやってきた子どもたちの実際の反応をみて翻訳出版された絵本も多い。このような活動が後の東京子ども図書館開館へと結実していく。

石井桃子は、2008年に101歳の生涯を終えた。その多方面に渡る仕事は、作者、出版社、児童図書館員のつながりにより、よい本が子どもたちに届き、そして、子どもたちが本を通して豊かな世界で生きるように、とのシンプルで強い思いに貫かれていたことがあらためて胸に伝わってくる。

（総務部人事課 北川 早苗）

※在庫切れのため入手不能。



## 韓国国立中央図書館 との第13回業務交流

10月12日～19日、国立国会図書館において標記の業務交流が行われた。韓国国立中央図書館および国立子ども青少年図書館から、ファン・ミョン（黄勉）デジタル情報利用課長ほか計4名が来日した。

東京本館で行われたセッションでは、両館のこの1年の取組みと今後の課題のほか、デジタル資源を利用した障害者図書館サービスや日韓自動翻訳の取組みについて双方が報告を行った。また国際子ども図書館では児童サービスの担当者が、インターネットを通じた児童サービスを中心に双方の現状と課題を話し合った。その後、関西館に場所を移して、電子書籍の収集、保存、提供について担当者が懇談し、情報交換を行った。

## 子どもの読書活動 推進支援計画2010

国際子ども図書館は、平成22年度から平成26年度までの5年間を計画期間として、「国立国会図書館国際子ども図書館 子どもの読書活動推進支援計画2010」を策定した。この計画は、①子どもの読書に関する情報発信の強化およびネットワークの構築、②人材育成支援、③学校図書館への支援 の3点について、国際子ども図書館が取り組むべき活動を示したもので、全国の公共図書館、学校図書館、文庫等の児童サービス関係者に対する支援をより充実させることを目的としている。今後は、関係諸機関との連携に留意しつつ、計画に基づいた活動を進めていく。

計画の全文は、国際子ども図書館ホームページ（<http://www.kodomo.go.jp/>）>国際子ども図書館について>関係法規・答申・計画など（<http://www.kodomo.go.jp/profile/laws/suishin2010.html>）に掲載している。

## お知らせ

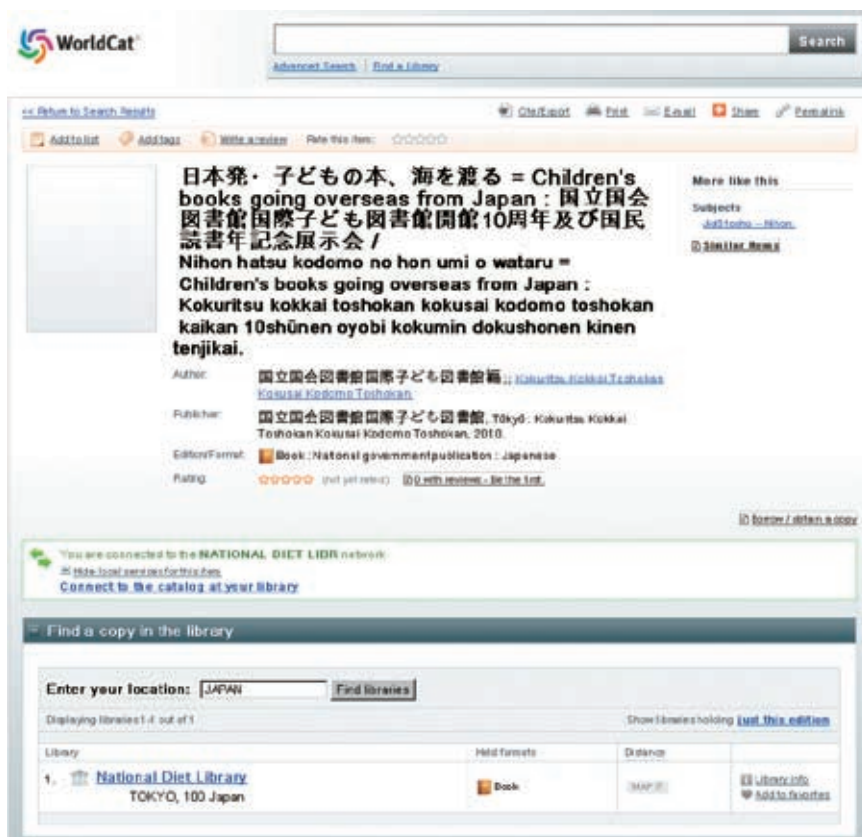
### ■ JAPAN/MARCが OCLCを通じて 利用できるよ うになりました

11月9日から、世界最大の図書館サービス組織OCLC（Online Computer Library Center, Inc.）が維持管理する書誌データベースWorldCatを通じて、国立国会図書館が作成した和図書の書誌データJAPAN/MARCが利用できるようになりました。

提供開始時点の書誌データ数は、約400万件です。今後、年4回データを更新し、また、典拠データ約90万件も提供する予定です。

OCLCに登録している図書館は、日本語資料の書誌データを作成する際に、JAPAN/MARCのデータをダウンロードして利用できます。また、OCLCに登録していなくても、インターネット上のWorldCatでJAPAN/MARCのデータを検索することが可能です。

○WorldCat <http://www.worldcat.org/>



The screenshot shows the WorldCat search results page for the book "日本発・子どもの本、海を渡る = Children's books going overseas from Japan : 国立国会図書館国際子ども図書館開館10周年及び国民読書年記念展示会 / Nihon hatsu kodomo no hon umi o wataru = Children's books going overseas from Japan : Kokuritsu kokkai toshokan kokusai kodomo toshokan kaikan 10shūnen oyobi kokumin dokushonen kinen tenjikai." The page includes the title in both Japanese and English, author information (National Diet Library), publisher (National Diet Library International Children's Library, Tokyo), and a list of libraries holding the book. The first library listed is the National Diet Library in Tokyo, Japan.

WorldCatの検索結果表示画面



## お知らせ

### ■ 英国図書館の 資料保存についての 講演会

国立国会図書館は、英国図書館資料保存部門長のデボラ・ノボトニー氏をお招きし、英国図書館における資料保存活動についての講演会を開催します。講演は、「英国図書館の資料保存対策:オリジナルからデジタルまで(仮題)」と、「英国図書館の書庫管理と保存環境(仮題)」のテーマで、2回に分けて開催します。どうぞ参加ください。

○講師 デボラ・ノボトニー氏(英国図書館資料保存部門長)

○日時 <資料保存対策> 平成23年2月15日(火) 14:00~16:00  
<書庫管理と保存環境>

平成23年2月17日(木) 14:00~16:00

○会場 東京本館 大会議室(定員 各回50名)

関西館 第1研修室(定員 各回50名 東京会場からのテレビ中継)

○お申込方法

次の事項を明記の上、電子メールまたはFAXで平成23年2月4日(金)までにお申し込みください。受付は先着順です。

①氏名(ふりがな) ②住所 ③電話番号 ④参加希望日 ⑤希望会場

⑥所属(個人の場合は不要)

○お申込み・お問い合わせ先

国立国会図書館 収集書誌部資料保存課保存企画係

電子メール hozonka@ndl.go.jp

FAX 03(3581)3291

電話 03(3506)5219(直通)



## お知らせ

---

### ■ シリーズ・いま、 世界の子どもの本は？ 第3回

#### 「いま、韓国の子どもの本は？」

国際子ども図書館は、社団法人日本ペンクラブとの共催で、「シリーズ・いま、世界の子どもの本は？」と題した世界各国の児童書に関するイベントを開催しています。

シリーズ第3回は、平成23年1月22日（土）に、韓国の子どもの本の現在と、その魅力をご紹介する講演会を開催します。入場は無料です。

○日 時 平成23年1月22日（土）14:00～16:30

○会 場 国際子ども図書館 3階ホール

○対 象 中学生以上（定員約100名）

○テ ー マ 「いま、韓国の子どもの本は？」

第一部「韓国の子どもの本の現在」（仮題）

講師：大竹聖美氏（東京純心女子大学准教授）

第二部「クォン・ユンドク氏へのインタビュー」（仮題）

クォン・ユンドク氏（作家 おもな作品に『マンヒのいえ』『しろいはうさぎ』等）

聞き手・通訳：大竹聖美氏

○お申込方法

次のいずれかの方法で、参加者1名につき1通に、氏名（ふりがな）、年齢、郵便番号、住所、電話番号をご記入の上、平成23年1月7日（金）までにお申し込みください（必着）。申込多数の場合は抽選となります。

[往復はがき] 〒110-0007 台東区上野公園12-49

国際子ども図書館「1月22日講演会」係

[電子メール] pen10122@kodomo.go.jp

（タイトル・件名欄に「1月22日講演会申込み」とお書きください）

○お問い合わせ先

国立国会図書館国際子ども図書館 企画協力課企画広報係

電話 03（3827）2053（代表）



## お知らせ

### ■ 平成22年度 児童サービス 協力フォーラム

国際子ども図書館は、都道府県立図書館による児童サービスの在り方についての意見交換・相互交流の場を設け、関係者間の連携・協力を促進するため、平成22年度から3年間の予定で「児童サービス協力フォーラム」を開催します。

第1回は「児童サービス研修のいまとこれから」をテーマとして、都道府県立図書館が実施する児童サービス支援活動の諸課題について、事例発表とグループディスカッションによる情報交換を行います。現状認識を深めるとともに、課題を整理し、さらなる向上のためのヒントを探ります。

○日 時 平成23年3月14日（月） 13:00～16:00

○会 場 国際子ども図書館 3階ホール

○対 象 公共図書館職員および類縁機関の児童サービス関係者等。

○定 員 80名。申込多数の場合は調整します。

○参加費 無料。ただし、旅費等は参加者の負担とします。

○お申込方法

次の事項を記載の上、平成23年1月11日（火）までに電子メールでお申し込みください（必着）。

①氏名（ふりがな）、②所属、③閉会後の国際子ども図書館見学希望の有無  
参加の可否は1月中旬にお知らせします。

○お申込み・お問い合わせ先

国立国会図書館国際子ども図書館 児童サービス課企画推進係

電子メール ml-kisui@ndl.go.jp

電話 03（3827）2053（代表）

※フォーラムの詳細は、ホームページをご覧ください。

国際子ども図書館ホームページ（<http://www.kodomo.go.jp/>）

>展示会・イベント>平成22年度児童サービス協力フォーラム

URL <http://www.kodomo.go.jp/event/evt/bnum/event2011-04.html>



## お知らせ

### ■ 平成22年度 レファレンス研修

公共図書館や大学図書館等でレファレンス業務を担当する中堅職員を対象に、レファレンス・サービスを遂行する上での問題解決に役立つ知識を取得し、実務能力の向上を図ることを目的として、次のとおり平成22年度レファレンス研修を実施します。

- 開催日 平成23年3月3日（木）、4日（金）
- 会場 関西館 第1研修室
- 対象 応募の時点でレファレンス業務に従事しており、レファレンス業務経験5年以上の公共図書館および大学図書館職員等。  
\*研修参加者には事前課題・事前アンケートを課します。
- 定員 24名。1機関1名。申込多数の場合は調整します。
- 内容 ①レファレンス・プロセスの理論と実務への適用、業務評価・分析の考え方  
②記録・事例作成のための基本的な考え方、記録の活用法（国立国会図書館の事例を基に）  
③人文科学および経済社会分野の代表的なレファレンス・ツール
- 講師 齋藤泰則氏（明治大学文学部教授）、当館主題情報部職員。
- 参加費 無料。ただし、旅費・滞在費等は受講者の負担とします。
- お申込方法  
ホームページに掲載している申込書にご記入の上、電子メール、FAXまたは郵送で平成23年1月7日（金）までにお申し込みください（必着）。
- お申込み・お問い合わせ先  
国立国会図書館関西館 図書館協力課研修交流係  
電子メール training@ndl.go.jp FAX 0774 (94) 9117  
〒619-0287 京都府相楽郡精華町精華台8-1-3  
電話 0774 (98) 1445 担当：日置、向井

※研修内容の詳細はホームページをご覧ください。

国立国会図書館ホームページ (<http://www.ndl.go.jp/>)

>図書館員の方へ>図書館員の研修

URL <http://www.ndl.go.jp/jp/library/training/index.html>

## お知らせ

### ■ 新刊案内 国立国会図書館の 編集・刊行物



レファレンス 718号 A4 228頁 月刊 1,050円 発売 日本図書館協会

〈特集：議会開設120年に寄せて〉

#### 第I部 日本の議会制度の変遷

- ・日本における「議院内閣制」のデザイン
- ・国会法の制定と委員会制度の再編
- ・帝国議会の貴族院
- ・我が国の選挙運動規制の起源と沿革
- ・帝国議会衆議院における建議と請願
- ・帝国議会および国会の立法統計（資料）

#### 第II部 世界の議会をめぐる動向

- ・議会は女性に開かれているか
- ・電子議会の国際的動向と米国の事例
- ・英国下院の省別特別委員会
- ・欧米10か国の政権政党（資料）

入手のお問い合わせ

日本図書館協会

〒104-0033 東京都中央区新川1-11-14 電話 03 (3523) 0812

『国立国会図書館月報』は2011年に600号を迎えます。  
また、2011年の7月・8月号は合併して8月20日に刊行する予定です。  
今後ともどうぞよろしくお願いいたします。



平成 **22**年(2010) **1**月号 >> **12**月号 No.**586**~**597**

凡 例 記事種別、さらに記事名の数字順、アルファベット順、次いで50音順に排列した。  
 ただし、連載記事は原則として掲載順に排列した。

記 載 例 蔵書のデジタル化 資料を守り、活用する (総務部企画課) 586 ① : 31-34

↓ ↓ ↓ ↓ ↓

記事名 執筆者名 掲載号 掲載月 頁

## 国立国会図書館 館長対談

国立国会図書館長と各界の著名人が知識社会について語り合う。

第13回	文化の多様性と知の伝承	前フランス国立図書館長 ジャン-ノエル・ジャンヌネー氏	586 ① : 4-10
第14回	技術が支える知の殿堂	アレクサンドリア図書館長 イスマイル・セラゲルディン氏	587 ② : 4-9

## 今月の一冊

国立国会図書館の蔵書の中から、美しい本、珍しい本、面白いエピソードがある本を広く紹介。

正月用引札の1シーンから	(中野 路子)	586 ① : 2-3
くまのプーさん 20世紀初頭の子どものための物語	(齊藤 史)	587 ② : 2-3
設計図に見る歌舞伎座の美学 岡田信一郎・捷五郎建築設計原図集成から	(檜山 未帆)	588 ③ : 2-3
<i>The Lady's Newspaper</i> イギリス女性向け新聞事始め	(齊藤 真生子)	589 ④ : 2-3
新政府綱領八策 坂本龍馬が目指したものは	(笹子 正成)	590 ⑤ : 2-3
樺山資紀の海軍葬	(葦名 ふみ)	591 ⑥ : 2-3
フェーヴル、マルタン『書物の出現』(1958)	(折田 洋晴)	592 ⑦ : 2-3
都紀行 幕末、幕臣の京都滞在日記	(川本 勉)	593 ⑧ : 2-3
<i>Journal asiatique</i> ヨーロッパ最古のアジア学雑誌	(林 瞬介)	594 ⑨ : 2-3
見立番附 山中共古のコレクション	(大沼 宜規)	595 ⑩ : 2-3
世界転覆奇談 せかいのひっくりかえるめずらしきはなし	(藤元 直樹)	596 ⑪ : 2-3
百科全書 フランス革命を準備した書物	(鈴木 尊紘)	597 ⑫ : 2-3

## 一般記事

図書館界の最新情報、国立国会図書館の蔵書、サービス、業務などを紹介。

インターネットと文化 チャンスか危機か (ジャン-ノエル・ジャンヌネー、編集 総務部支部図書館・協力課)	586 ① : 11-13
ウェブサイトを未来に伝える 改正国立国会図書館法によるインターネット資料収集保存事業 (関西館電子図書館課)	593 ⑧ : 22-25
動かし、整え、収める 資料移送の記 (総務部企画課、資料提供部図書館課、関西館文献提供課)	588 ③ : 10-15
絵本の黄金時代 1920~1930年代 子どもたちに託された伝言 (国際子ども図書館「絵本の黄金時代1920~1930年代」展示班)	597 ⑫ : 4-10



オランダにおける資料保存研究 王立図書館からの報告 (ヘンク・ポルク、編集 収集書誌部資料保存課)	586 ① : 24-27
開館10周年を迎えた国際子ども図書館	590 ⑤ : 4-19
国際子ども図書館 これまでの歩みとこれから (齋藤 友紀子)	590 ⑤ : 5-8
日本発☆子どもの本、海を渡る (国際子ども図書館「日本発☆子どもの本、海を渡る」展示班)	590 ⑤ : 9-15
国立国会図書館を見学してみよう 国際子ども図書館編 (国際子ども図書館企画協力課)	590 ⑤ : 16-19
韓国の電子図書館サービス (佐藤 毅彦)	588 ③ : 4-9
官報 東京本館議会官庁資料室の資料から (調査及び立法考査局議会官庁資料課)	587 ② : 31-33
議会開設120年(特集)	596 ⑪ : 4-21
120年の蓄積と重み 議会開設百二十年記念議会政治展示会開催に際して (季武 嘉也)	596 ⑪ : 4-13
電子展示会「史料にみる日本の近代」 開国から戦後政治までの軌跡 (主題情報部政治史料課)	596 ⑪ : 14-17
帝国議会の歴史をひもとく 帝国議会会議録検索システム (調査及び立法考査局)	596 ⑪ : 18-21
近代デジタルライブラリー 明治・大正の書物の世界へ (関西館電子図書館課、資料提供部図書課)	587 ② : 14-18
憲政資料室の新規公開資料から 石黒忠恵、石黒忠篤、松本丞治、小林次郎関係文書 (主題情報部政治史料課)	595 ⑩ : 12-18
国立国会図書館の平成22年度予算 (総務部会計課)	589 ④ : 20-21
国立国会図書館を見学してみよう 関西館編 (関西館総務課)	587 ② : 20-23
子どもたちの「調べる」をお手伝い 国立国会図書館キッズページ (国際子ども図書館企画協力課)	589 ④ : 18-19
この人を知る 布川角左衛門 (長尾 宗典)	594 ⑨ : 21-23
坂本龍馬 近江屋事件の現在 (菊地 明)	596 ⑪ : 26-36
さまざまなメディア 東京本館音楽・映像資料室と電子資料室の資料から (資料提供部電子資料課)	591 ⑥ : 19-23
持続可能な社会の構築 スウェーデンからのメッセージ (アニタ・リンネル、編集 調査及び立法考査局調査企画課)	588 ③ : 20-25
終戦の詔書 史料で読み解く二つの疑問 (山田 敏之)	593 ⑧ : 4-19
主題検索のしくみ 本をテーマで探すには (収集書誌部収集・書誌調整課、国内資料課)	591 ⑥ : 4-9
出版の歴史を残す 戦前・戦中の発禁図書コレクション (資料提供部図書課)	592 ⑦ : 27-31
新年のごあいさつ 新しい「読書」へ (長尾 真)	586 ① : 43
数字で見る国立国会図書館 『国立国会図書館年報 平成21年度』から (総務部総務課)	595 ⑩ : 20-21
蔵書のデジタル化 資料を守り、活用する (総務部企画課)	586 ① : 31-34
知識へのオープンアクセス 持続的な発展の促進に向けて 世界図書館情報会議—第76回国際図書館連盟(IFLA)大会 (国立国会図書館IFLAヨーテボリ大会派遣団)	597 ⑫ : 19-25
中国国家デジタル図書館の現在 (総務部支部図書館・協力課)	589 ④ : 4-7
『調査と情報—ISSUE BRIEF—』 国政の課題をコンパクトに解説 (調査及び立法考査局調査企画課)	588 ③ : 27-29
電子書籍・電子雑誌等の収集に向けて 納本制度審議会答申「オンライン資料の収集に関する制度の在り方について」 (収集書誌部収集・書誌調整課)	592 ⑦ : 4-11
電子展示会「江戸時代の日蘭交流」日本とオランダのつながり (展示委員会電子展示小委員会)	586 ① : 14-21
電子展示会「博覧会—近代技術の展示場」 (展示委員会電子展示小委員会)	592 ⑦ : 18-22
図書館と読書 ドイツ・ヨーロッパの経験 (バーバラ・リゾン、編集 総務部支部図書館・協力課)	595 ⑩ : 22-24
図書館の知識をウェブの世界へ 国立国会図書館件名標目表 (NDLSH) の展開 (収集書誌部収集・書誌調整課)	591 ⑥ : 10-14
日本法令索引が新しくなりました (調査及び立法考査局議会官庁資料課)	590 ⑤ : 32-34
納本制度の日に寄せて	590 ⑤ : 21-29
納本制度の役割と「欠本はなぜ生じるか」 (藤本 由香里)	590 ⑤ : 22-27
納本制度の歩み その先へ (収集書誌部)	590 ⑤ : 28-29
走れ! 収集ロボット インターネット資料収集のしくみ (関西館電子図書館課)	597 ⑫ : 11-17
パピルスからPDFへよみがえるアレクサンドリア図書館 (イスマイル・セラゲルディン、編集 総務部支部図書館・協力課)	587 ② : 10-13
広げよう、デジタルアーカイブの世界 博物館・美術館、図書館、文書館等の連携に向けて (関西館電子図書館課)	594 ⑨ : 4-13
米国議会図書館に残る戦前期の日本語文獻 (鈴木 宏宗)	592 ⑦ : 23-26
米国の連邦図書館ネットワーク (ロベルタ・シェーファー、編集 総務部支部図書館・協力課)	591 ⑥ : 24-25
平成21年度の国立国会図書館 活動実績評価報告 (総務部企画課)	594 ⑨ : 14-19
本を読んで世界を知ろう 学校図書館セット貸出し (国際子ども図書館児童サービス課)	595 ⑩ : 6-11



## 図解 国立国会図書館のしごと

館のサービスや業務について、図やチャートで紹介。

電子展示会	(主題情報部参考企画課)	586 ① : 22-23
遠隔複写サービス	(関西館文献提供課)	588 ③ : 16-19
『カレントアウェアネス』のしくみ	(関西館図書館協力課)	589 ④ : 14-15



## 図書館で学ぶ

調べものに役立つ情報や資料の活用など、国立国会図書館ならではの知識を紹介。

第6回 地図資料の探し方	(主題情報部人文課地図室)	587 ② : 26-30
第7回 ビジネス情報の調べ方	(主題情報部科学技術・経済課)	588 ③ : 30-34
第8回 幼年童話の世界	(宮川 健郎)	589 ④ : 8-13
第9回 資料保存 その考え方と対策	(収集書誌部資料保存課)	592 ⑦ : 13-17



## 本の万華鏡ができるまで

ミニ電子展示会「本の万華鏡」の作成に携わる職員が展示のエピソードや本の探し方のコツなどを紹介。

第3回 いい男点描—それぞれの時代の文学・芸能から—	(展示委員会「本の万華鏡」担当)	588 ③ : 35
----------------------------	------------------	------------



## ビジュアル 国立国会図書館博物館

館内で長い間使っているモノ、かつて大活躍したモノを紹介。

No.15 納本月報	(梶田 英知)	590 ⑤ : 30
------------	---------	------------



## 本の森を歩く

国民読書年にちなみ、国立国会図書館の巨大な書庫の中から、毎回一つのテーマにそって蔵書を紹介。

第1回 恋愛論の100年を読む	(主題情報部参考企画課、総務部総務課)	587 ② : 24-25
第2回 東京洋館散歩	(主題情報部参考企画課、総務部総務課)	589 ④ : 16-17
第3回 ユートピア どこにもない場所	(主題情報部参考企画課、総務部総務課)	591 ⑥ : 16-18
第4回 外国人の明治日本紀行	(主題情報部参考企画課、総務部総務課)	593 ⑧ : 26-29
第5回 外食の歴史	(主題情報部参考企画課、総務部総務課)	594 ⑨ : 24-25
特別篇 館長 長尾真が読書週間に選ぶ9冊	(長尾 真)	595 ⑩ : 4-5
第7回 雪—冬に咲く華	(主題情報部参考企画課、総務部総務課)	597 ⑫ : 26-29

## ● 本屋にない本

本誌創刊以来続くコーナー。納本制度により収集した出版物の中から、主に取次店を通らず入手しにくい国内出版物を紹介。

『石井桃子展』	(北川 早苗)	597 ⑫ : 30
『江戸っ子が見た三河万歳 特別展』	(都筑 志麻)	586 ① : 28
『絵葉書のなかの土佐 移ろいゆく時代の記憶 展示解説図録』	(山崎 美和)	596 ⑪ : 23
『沖縄・プリズム 1872-2008』	(田中 亮之介)	589 ④ : 23
『葛西臨海水族園 20周年記念誌 1989-2009』	(山崎 幹子)	594 ⑨ : 26
『神奈川県立川崎図書館 50年史 科学と産業の情報ライブラリー』	(嶋田 真智恵)	591 ⑥ : 28
『喜多方の染型紙 喜多方の染型紙を生活と遊びの中に 会津型を利用したものづくり』	(光延 真理)	591 ⑥ : 26
『国宝土偶展 文化庁海外展 大英博物館帰国記念』	(井田 敦彦)	596 ⑪ : 24
『隅田川文化の誕生 梅若伝説と幻の町・隅田宿 すみだ郷土文化資料館開館10周年記念特別展 展示図録』	(濱田 久美子)	587 ② : 36
『スリランカ 輝く島の美に出会う 特別展』	(落 美都里)	587 ② : 35
『全国高等学校野球選手権大会史 第81-90回』 『選抜高等学校野球大会 80年史』	(石井 俊行)	592 ⑦ : 32
『戦中「学級日誌」 戦争下の小学生が考えたこと 大津市歴史博物館蔵』	(江澤 和雄)	593 ⑧ : 21
『珠玉の輿 江戸と乗物 特別展』	(館野 絵美)	588 ③ : 36
『新潟県中越沖地震』	(井家 展明)	589 ④ : 24
『ニッポンの棚田 棚田学会10周年記念誌』	(矢口 克也)	590 ⑤ : 31
『日本のカメは今… 宍道湖自然館第17回特別展 「カメは生きている！」 展示解説』	(岸 淳)	592 ⑦ : 33
『布と暮らす人たち 東部インドネシアのイカット 平成20年度杉野学園衣裳博物館企画展 江上幹幸コレクション』	(小笠原 綾)	595 ⑩ : 26
『博物館は知のワンダーランド はたちを迎えた中央博と友の会の活動』	(滑川 憲一)	591 ⑥ : 27
『バリアフリー映画をスタンダードにするために』	(山口 紀子)	588 ③ : 37
『ひ・ま・わ・り アルケア・ストーリーマジネスの45年間』	(林 明日香)	586 ① : 29
『深川図書館100年のあゆみ』	(川鍋 真理子)	594 ⑨ : 27
『ふりかけの世界』	(高品 盛也)	596 ⑪ : 25
『ブラジル花卉産業史序説』	(長谷川 卓)	587 ② : 34
『文楽の衣裳』	(幡谷 祐子)	592 ⑦ : 34
『幻の写本 大澤本源氏物語』	(上田 由紀美)	595 ⑩ : 25
『三越美術部100年史』	(松井 美樹)	589 ④ : 22

## ● 館内スコープ

館内の様々な業務を担当職員が紹介するコラム。

『江戸時代の日蘭交流』展 展示委員の余得	(古典籍課)	586 ① : 30
デジタル化担当者のある一日 “物” と “デジタル” の間で	(電子図書館課資料電子化係)	587 ② : 19
調査、調査、調査???	(調査及び立法考査局調査企画課)	588 ③ : 26
ああ積算の夜は更けて 入札と予定価格	(総務部会計課)	589 ④ : 25
子どもと本のつなぎ手として	(児童サービス課企画推進係)	590 ⑤ : 20
お得な情報あります	(収集・書誌調整課)	591 ⑥ : 15
100年後もよみたい	(収集・書誌調整課納本制度係)	592 ⑦ : 12
現場からお伝えます。 雑誌のデジタル化作業	(雑誌課保管係)	593 ⑧ : 20
国立国会図書館を知るための数字 一統計一	(企画課評価係)	594 ⑨ : 20
30分で伝える調べ方	(新聞課資料係)	595 ⑩ : 19
国会と歩んで60年 月刊誌『レファレンス』一	(調査企画課編集係)	596 ⑪ : 22
国民読書年をふりかえって	(総務課広報係)	597 ⑫ : 18



# N D L News

## 当館の最近の動き

館にかかわる新しい動き、重要な会議等の報告。

OCLCを通じたJAPAN/MARCの提供	592 ⑦ : 35
おもな人事	589 ④ : 30-31
韓国国立中央図書館との第12回業務交流	586 ① : 35
韓国国立中央図書館との第13回業務交流	597 ⑫ : 31
韓国国会図書館、韓国国会立法調査処との第1回業務交流	589 ④ : 26
感謝状の贈呈	591 ⑥ : 29
講演会「これからの大学図書館：グーグル化する世界と将来展望」	590 ⑤ : 37
「公共的書誌情報基盤」に関する関係実務者会議	594 ⑨ : 28
国際政策セミナー「中国の対外戦略と日中関係」	596 ⑪ : 37
子どもの読書活動推進支援計画2010	597 ⑫ : 31
出版物の全文テキスト化実証実験	593 ⑧ : 30
第1回公共図書館におけるデジタルアーカイブ推進会議	589 ④ : 28
第6回資料保存懇話会	588 ③ : 38
第6回レファレンス協同データベース事業フォーラム	589 ④ : 27-28
第17回総合目録ネットワーク事業フォーラム	589 ④ : 27
第18回納本制度審議会	590 ⑤ : 35-36
第51回科学技術関係資料整備審議会	589 ④ : 26
中国国家図書館との第28回業務交流	586 ① : 35
デジタル情報資源の長期保存とデジタルアーカイブの長期利用に関する国際シンポジウム	589 ④ : 28-29
デジタル情報資源ラウンドテーブル発足記念講演会「知的資産を繋ぐ—ヨーロッパの実践」	589 ④ : 29
東京本館で新たに絵画を展示	594 ⑨ : 29
「日中韓電子図書館イニシアチブ協定」の締結	594 ⑨ : 28
日本書籍検索制度提言協議会の設立について	586 ① : 37
フランス共和国上院議員団の訪問	596 ⑪ : 37
米国議会図書館とのデジタル化共同事業協定	593 ⑧ : 30
平成21年度国立国会図書館長と行政・司法各部門支部図書館長との懇談会	586 ① : 35-36
平成21年度国立国会図書館長と大学図書館長との懇談会	586 ① : 36
平成21年度書誌調整連絡会議	586 ① : 37
平成22年度国際子ども図書館連絡会議	592 ⑦ : 35
平成22年度国立国会図書館長と都道府県立及び政令指定都市図書館長との懇談会	593 ⑧ : 31
法規の制定	587 ② : 37
	588 ③ : 38-39
	590 ⑤ : 37-38
	593 ⑧ : 31
	594 ⑨ : 29
ワールドデジタルライブラリー憲章	591 ⑥ : 29
ワールドデジタルライブラリー・パートナー会議	593 ⑧ : 30



## お知らせ

新しいサービス、イベント、研修等のお知らせのほか、刊行物の  
新刊案内を掲載。

JAPAN/MARCがOCLCを通じて利用できるようになりました	597 ⑫ : 32
NDL-OPACで検索できる資料が増えました	591 ⑥ : 33
OCLC 副社長ジェームズ・ミハルコ氏の講演会	594 ⑨ : 36
PORTAと人間文化研究機構統合検索システムとの連携を開始しました	593 ⑧ : 33
アジア言語OPACでタガログ語図書が検索できるようになりました	588 ③ : 43
アジア言語OPACでトルコ語図書が検索できるようになりました	586 ① : 41
インターネット情報の収集・保存を開始します—改正国立国会図書館法施行	589 ④ : 32-33
英国図書館の資料保存についての講演会	597 ⑫ : 33
絵本ギャラリー『『コードモノクニ』掲載作品検索』で閲覧できる画像が増えました	590 ⑤ : 40
音楽・映像資料室の休室	588 ③ : 43
「カレントアウェアネス」関連情報のTwitterによる試行提供を開始しました	587 ② : 39
関西館企画展示「明治立憲制へのあゆみ—名士の筆跡をたどって—」	596 ⑪ : 39
関西館小展示「往年のベストセラー—日本人は何を、どう読んできたか」	590 ⑤ : 46
関西館小展示「平城遷都1300年関連展示—シルクロードをたどる人びと」	593 ⑧ : 38
議会開設百二十年記念 議会政治展示会	595 ⑩ : 27
近代デジタルライブラリーがさらに充実しました—インターネットで17万冊、館内で39万冊を提供開始	593 ⑧ : 32
「近代デジタルライブラリー」をリニューアルしました	589 ④ : 34
携帯電話向けサイトを開設しました	587 ② : 39
講演会「セマンティックウェブと図書館：機械が情報を読む時代へ」	591 ⑥ : 32
講演会「電子図書館の可能性」	591 ⑥ : 31
国際子ども図書館開館10周年及び国民読書年記念展示会「絵本の黄金時代—1920～1930年代—子どもたちに託された伝言」	594 ⑨ : 30
国際子ども図書館開館10周年及び国民読書年記念展示会「絵本の黄金時代—1920～1930年代—子どもたちに託された伝言」関連シンポジウム	595 ⑩ : 29
国際子ども図書館開館10周年及び国民読書年記念展示会「日本発☆子どもの本、海を渡る」	586 ① : 38
国際子ども図書館開館10周年記念及び国民読書年関連行事—読み聞かせ講座「親子で楽しむ昔話」	594 ⑨ : 35
国際子ども図書館開館10周年記念及び国民読書年展示会「世界のバリアフリー—絵本展—国際児童図書評議会2009年推薦図書展」	592 ⑦ : 36
国際子ども図書館で「子どものための落語会」を開催します	588 ③ : 41
国際子ども図書館夏休み催物「科学あそび」	591 ⑥ : 34
国際子ども図書館のメールマガジンができました	590 ⑤ : 48
国際政策セミナー「中国の対外戦略と日中関係」	594 ⑨ : 34
国民読書年記念イベント「日本語と翻訳—シェイクスピア『マクベス』朗読と作品解説—」	590 ⑤ : 41
国民読書年記念国際シンポジウム「本を読むという文化—デジタル時代における展開—創造性とアクセスを育む手段としての著作権—」	594 ⑨ : 32-33
国民読書年記念シンポジウム「読書とはなにか」	594 ⑨ : 31
国民読書年記念—ロジェ・シャルチエ氏講演会「本と読書、その歴史と未来」	593 ⑧ : 40
「国立国会図書館サーチ」開発版を公開しました	593 ⑧ : 36
国立国会図書館データベースフォーラム	593 ⑧ : 37
国立国会図書館データベースフォーラム（関西館）	592 ⑦ : 38
『国立国会図書館 図書館協力ハンドブック』を刊行しました	588 ③ : 44
「子ども霞が関見学デー」に参加します	592 ⑦ : 37
『参考書誌研究』バックナンバーをホームページに掲載しました	587 ② : 40
児童書デジタルライブラリーに約300タイトルの資料を追加しました	586 ① : 39
シリーズ・いま、世界の子どもの本は？ 第3回「いま、韓国の子どもの本は？」	597 ⑫ : 34
資料の大規模デジタル化に伴う原資料の利用停止について	590 ⑤ : 39

第12回図書館総合展に参加します	595 ⑩ : 28
第14回資料保存研修	590 ⑤ : 47
第17回東京国際ブックフェアに参加します	591 ⑥ : 35
第21回保存フォーラム	594 ⑨ : 40
大規模デジタル化に伴う資料の利用停止について	593 ⑧ : 34-35
大正時代等の本の著作権者を探しています	591 ⑥ : 30
「データベースフォーラム」がインターネットで見られます	586 ① : 40
東京本館「30分でわかる調べ方ガイダンス」	590 ⑤ : 43 594 ⑨ : 37
東京本館「利用ガイダンス」 関西館「ミニガイダンス」	590 ⑤ : 42
図書館協力事業に関する情報をツイッターで発信しています	595 ⑩ : 31
図書館を経由したレファレンス・サービスのFAX・郵送での申込み、 遠隔複写・図書館間貸出しのFAXでの申込みを終了します	591 ⑥ : 33
年末年始のご利用について	596 ⑪ : 38
平成21年度利用者アンケートの結果をホームページに掲載しました	587 ② : 38
平成22年度アジア情報研修「中国関連情報の調べ方」	594 ⑨ : 39
平成22年度科学技術情報研修	593 ⑧ : 39
平成22年度国立国会図書館職員採用試験	588 ③ : 40
平成22年度児童サービス協力フォーラム	597 ⑫ : 35
平成22年度「児童文学連続講座－国際子ども図書館所蔵資料を使って」	592 ⑦ : 39
平成22年度障害者サービス担当職員向け講座	595 ⑩ : 30
平成22年度図書館情報学実習生を募集します	588 ③ : 42
平成22年度の図書館員を対象とする研修	590 ⑤ : 44-45
平成22年度法令・議会・官庁資料研修	594 ⑨ : 38
平成22年度レファレンス研修	597 ⑫ : 36
「本の万華鏡」第3回「いい男点描」	586 ① : 40
「本の万華鏡」第4回「ベストセラーの歩み－つくる側の視点から－」	589 ④ : 33
「本の万華鏡」第5回「ようこそ、空へ－日本人の初飛行から世界一周まで－」	596 ⑪ : 40
明治時代の本の著作権者を探しています	590 ⑤ : 40
利用者アンケート ご協力のお願ひ	591 ⑥ : 30
<b>●新刊案内 国立国会図書館の編集・刊行物</b>	
NDL CD-ROM Line 点字図書・録音図書全国総合目録 2009年2号～2010年1号	586 ① : 42 591 ⑥ : 35
外国の立法 立法情報・翻訳・解説 第242号～第245号	586 ① : 42 589 ④ : 35 592 ⑦ : 40 595 ⑩ : 31
カレントアウェアネス 302号～305号	586 ① : 42 589 ④ : 35 592 ⑦ : 40 595 ⑩ : 32
参考書誌研究 第71～72号	586 ① : 42 589 ④ : 35
平成21年度国際子ども図書館児童文学連続講座講義録 「いつ、何と出会うか－赤ちゃん絵本からヤングアダルト文学まで」	595 ⑩ : 32
レファレンス 第707号～第718号	毎号

## CONTENTS

- 02 Book of the month - from NDL collections  
*L'Encyclopédie*  
A book that led to the French Revolution
- 04 The Golden Age of the Picture Book  
1920s & 1930s - History's Message
- 11 Go! Go! Web crawlers! Web archiving system
- 19 Open access to knowledge - promoting sustainable progress  
World Library and Information Congress: 76th IFLA General Conference and Assembly
- 26 Strolling in the forest of books (7)  
Snow - flowers blooming in winter
- 18 <Tidbits of information on NDL>  
Review of the National Year of Reading
- 30 <Books not commercially available>  
○ *Ishii Momoko ten*
- 31 <NDL News>  
○ 13th mutual visit program with the National Library of Korea  
○ Support Plan for the Promotion of Children's Reading Activities 2010
- 32 <Announcements>  
○ JAPAN/MARC now available through OCLC  
○ Lecture meeting on preservation and conservation in the British Library  
○ Series: What's Happening with Children's Books in the World? (3)  
What's Happening with Children's Books in Korea?  
○ Cooperation forum for children's services FY2010  
○ Reference training program FY2010  
○ Book notice - Publications from NDL
- 38 Annual index to *National Diet Library Monthly Bulletin*, nos. 586-597

## 国立国会図書館月報

平成22年12月号 (No.597)

平成22年12月20日発行 定価 525円  
(本体500円)

発行所 国立国会図書館  
編集責任者 山田敏之  
〒100-8924 東京都千代田区永田町1-10-1  
電話 03(3581)2331(代表)  
FAX 03(3597)5617  
E-mail geppo@ndl.go.jp

発売 社団法人日本図書館協会  
〒104-0033 東京都中央区新川1-11-14  
電話 03(3523)0812(販売)  
FAX 03(3523)0842  
E-mail hanbai@jla.or.jp

印刷所 株式会社正文社印刷所

本誌に掲載した論文等のうち意見にわたる部分は、それぞれ筆者の個人的見解であることをお断りいたします。本誌に掲載された記事を全文または長文にわたり抜き抜して転載される場合には、事前に当館総務部総務課に連絡してください。本誌517号以降、PDF版を当館ホームページ (<http://www.ndl.go.jp/>) > 「刊行物」 > 「国立国会図書館月報」でご覧いただけます。



「新板かつて道具尽」  
歌川芳虎画 安政4（1857）年  
1枚 35.4×25.6 cm  
（『おもちゃ絵』＜請求記号 寄別3-1-2-4＞所収）

## 国立国会図書館月報

平成22年12月20日発行（毎月1回20日発行）  
（12月号通巻597号）

発売：社団法人 日本図書館協会 定価 525 円（本体 500 円）